

第4次南箕輪村子ども読書活動推進計画



令和5年3月

南箕輪村

第4次南箕輪村子ども読書活動推進計画

目次

第1章 はじめに	1
第2章 第三次計画期間（平成30年度～令和4年度）における取組・成果と課題	2
1 第三次計画の目標	2
2 第三次計画の取組と成果	3
（1）南箕輪村子どもの読書活動に関するアンケート調査結果概要	3
（2）取組について	3
（3）アンケート結果から見える子どもの読書状況	8
（4）アンケート自由記述から見える年齢別子どもの読書状況	16
（5）保育園・学校・地域における取組・成果と課題	18
（6）取組事例～伝えよう！つながろう！広げていこう！読書のよろこび～	24
3 アンケート及び取組から見る第三次計画の成果と課題	29
第3章 第4次計画の基本方針・目標	30
第4章 第4次計画推進のための方策	33
1 家庭における子どもの読書活動の推進	33
2 保育園における子どもの読書活動の推進	33
3 学校における子どもの読書活動の推進	34
4 地域における子どもの読書活動の推進	37
第5章 広報・啓発活動	40
第6章 関係機関との連携・協力	41
＊を付した用語の解説は、資料編をご覧ください。	

《資料編》

- ・用語解説

《南箕輪村図書館ウェブサイト『資料編』参照》

- ・子どもの読書活動取組事例集
- ・南箕輪村における子どもの読書活動に関するアンケート調査結果

第1章 はじめに

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条）であり、社会全体で積極的にそのための環境整備を推進していくことは極めて重要なことです。

情報メディアの急速な普及や新型コロナウイルス感染症により社会の環境が急激に変化し、子どもを取り巻く環境も変化しています。複雑化していく社会において、子どもにとって読書活動は「子どもが未来をたくましく切り拓くための活力の源となる」（「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」）ことが、改めて認識されています。

国は、子どもの読書活動を推進するため、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、この法律に基づき、平成14年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。続いて、平成20年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）」、平成25年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」を策定し、平成30年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第4次）」を策定しています。

長野県においても、国の動向を踏まえ、平成16年に「長野県子ども読書活動推進計画」を策定しました。その後、平成21年に「第2次長野県子ども読書活動推進計画」、平成27年に「第3次長野県子ども読書活動推進計画」を策定し、令和2年に「第4次長野県子ども読書活動推進計画」を策定しています。

本村では、こうした国と県の動向を踏まえ、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づき、平成19年4月に「南箕輪村子ども読書活動推進計画」（平成19年度～平成23年度）を、続いて平成25年3月に「第二次南箕輪村子ども読書活動推進計画」（平成25年度～平成29年度）、平成30年3月に「第三次南箕輪村子ども読書活動推進計画（平成30年度～令和4年度）」を策定し、家庭、保育園、学校、地域（図書館、保健センター等）において、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

このたび、第三次南箕輪村読書活動推進計画（以下「第三次計画」という。）の終了に伴い、第三次計画の方針を継承しながら、第三次計画で取り組んできた成果と課題を踏まえ、「第4次南箕輪村子ども読書活動推進計画」（以下「第4次計画」）を策定します。村の最上位計画である「南箕輪村総合計画」において、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組を推進していることから、第4次計画においても、SDGsの目標である主に「4 質の高い教育をみんなに」の達成に向けて取り組みます。第4次計画は、南箕輪村総合計画、国と県の子ども読書活動推進計画との整合性を図っていきます。

第2章 第三次計画期間（平成30年度～令和4年度）における

取組・成果と課題

南箕輪村では、平成30年度から令和4年度までの5年間、子どもの読書活動を推進させるため、家庭、保育園、学校、地域（図書館、保健センター）等の関係機関がより密に連携・協力して、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。期間中の令和2年度から令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもの読書環境は感染対策を優先し、各関係機関では新たな活動方法を探りながら取り組みました。

1 第三次計画の目標

第三次計画の目標

1 計画の基本目標

～ 伝えよう！ つながろう！ 広げていこう！ 読書のよろこび ～

2 取組項目

取組1 “読書のよろこび、わかちあってつながろう！”

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・子どもから家族へ | ・家族から子どもへ |
| ・子どもから先生へ | ・先生から子どもへ |
| ・子どもから地域の大人へ | ・地域の大人から子どもへ |
| ・保護者から先生や地域の大人へ | ・先生や地域の大人から保護者へ |
| ・子どもから子どもへ | ・保護者から保護者へ |

取組2 “毎月23日は、メディアの利用を控え、読書でつながる楽しい日にしよう！”

3 成果

子どもの読書状況についてアンケート調査を継続し、その傾向を調査するとともに、子どもの読書活動を推進する関係機関で「取組事例」を収集することで考察します。

2 第三次計画の取組と成果

(1) 南箕輪村子どもの読書活動に関するアンケート調査結果概要

～『令和4年度南箕輪村子どもの読書活動に関するアンケート調査結果』～

第三次計画のまとめにあたり、南箕輪村の子どもたちの読書活動に関する現状を把握するため、アンケート調査を実施しました。※詳細については、資料編を参照ください。

比較数値として、「H29」と記載してある数値は平成29年度に実施のアンケート調査結果、「H24」と記載してある数値は平成24年度に実施のアンケート調査結果です。

※今回新たに追加した質問には、比較数値の記載はありません。

調査名： 令和4年度『南箕輪村子どもの読書活動に関するアンケート調査』

調査時期： 令和4年11月下旬～12月下旬

調査対象： 村内保育園児と保護者 693人 回答 463人(回収率66.8%)

村内小学生 1,021人 回答 774人(回収率75.8%)

村内中学生 528人 回答 401人(回収率75.9%)

調査方法： 保育園児と保護者 調査用紙を家庭に持ち帰り、保護者がWEB回答か調査用紙にて回答

小学1年生～小学3年生 調査用紙を家庭に持ち帰り、保護者と回答

小学4年生～小学6年生・中学生 クラスごと担任が立会い、学校で一斉実施

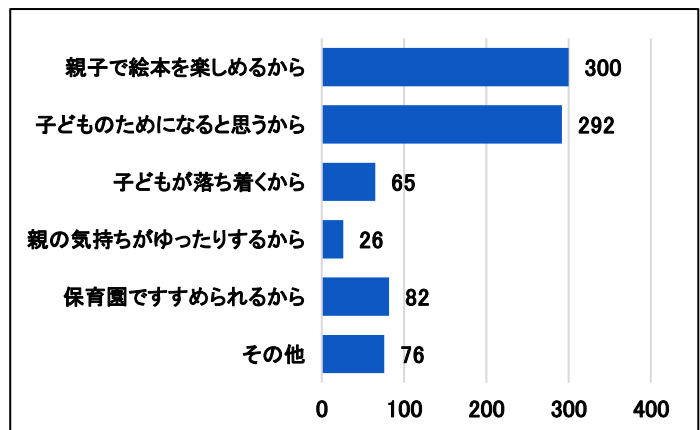
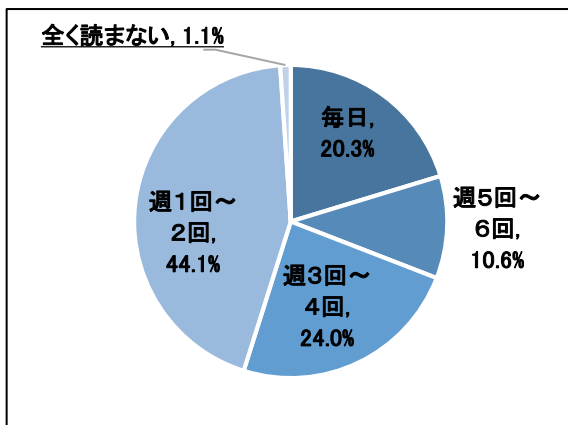
(2) 取組について

① 取組1 “読書のよろこび、わかちあってつながろう！”の浸透度

■質問 お子さんにご家庭で週どのくらい絵本を読んでいますか。

■質問「読んでいる」と答えた方は、絵本を読んでいる理由について教えてください。

(保育園児の状況)

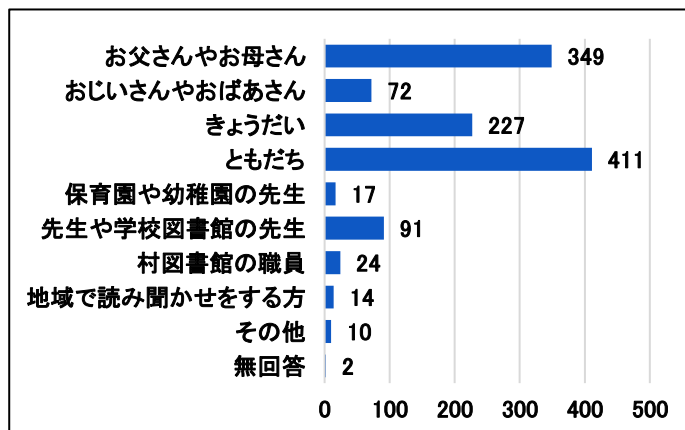
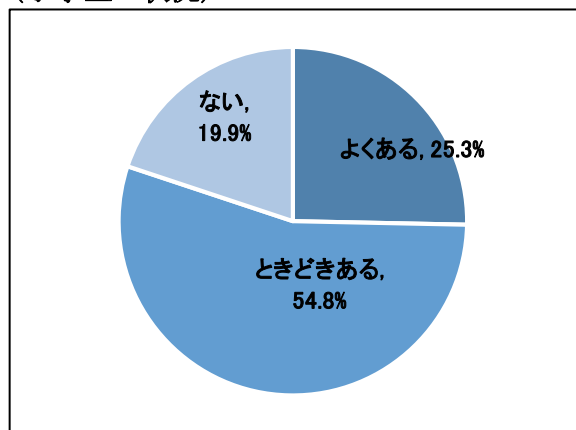


保育園児の家庭では、「全く読まない」が1.1%にとどまり、98.9%の家庭では「週1回～2回」以上は絵本

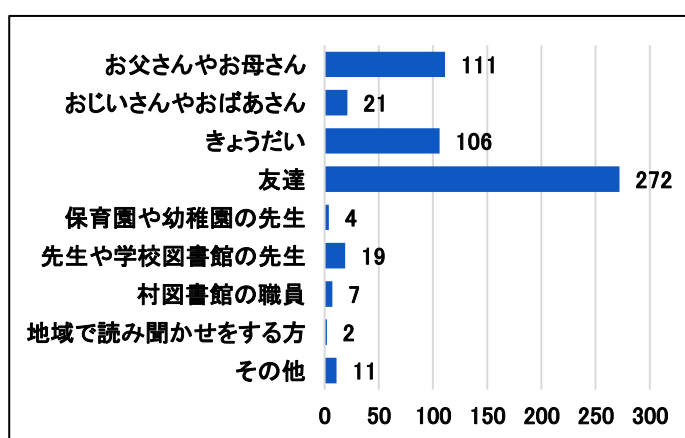
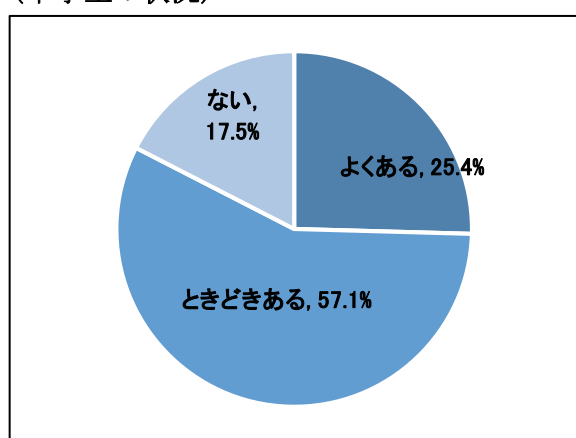
を読んでいることがわかりました。その理由として「親子で絵本を楽しめるから」、「子どものためになると思うから」などと回答していることから、絵本の読み聞かせを通して、親子間で感情や時間の共有をし、つながりを持っていることがわかりました。

- 質問 読んでおもしろかった本を友だちや家族などに話したり、教えてもらったことはありますか。
- 質問 「よくある」「ときどきある」と答えた方は、話したり教えてもらった人は誰ですか。(複数回答可)

(小学生の状況)



(中学生の状況)

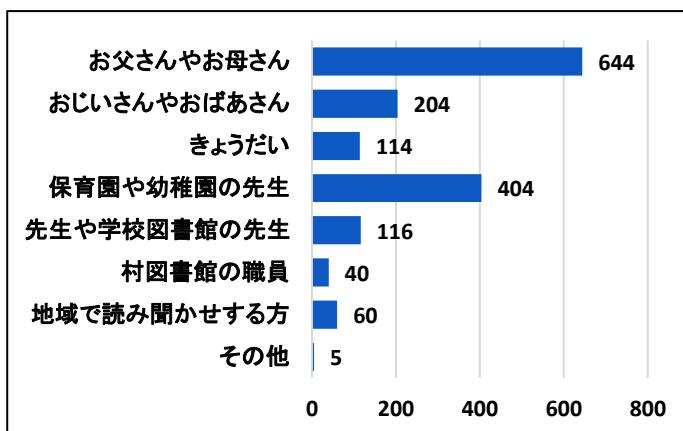
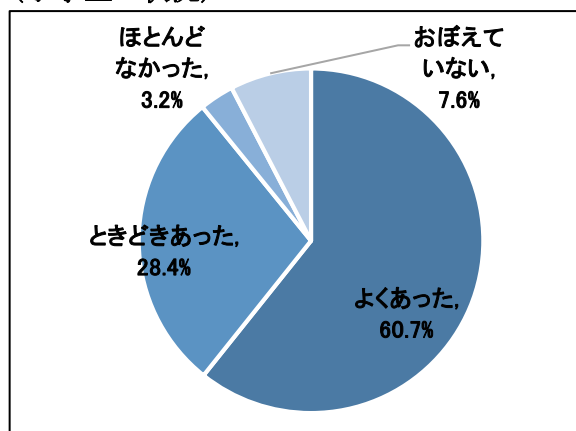


「よくある」「ときどきある」と回答した人は、小学生は80.1%、中学生は82.5%でした。「話したり、教えてもらった人は誰ですか」という質問に、小学生、中学生ともに「友達」が最も多い回答でした。「お父さんやお母さん」、「きょうだい」、「おじいさんやおばあさん」などの家族をあげる回答も多くありました。また家族だけでなく、「先生や学校図書館の先生」、「保育園や幼稚園の先生」や、「村図書館の職員」、「地域で読み聞かせをする方」など、子どもたちが読書についてあらゆる場所で、幅広い年齢層の人と話す機会を持っていることがわかります。

■質問 小さい時、本を読んでもらったことがありますか。

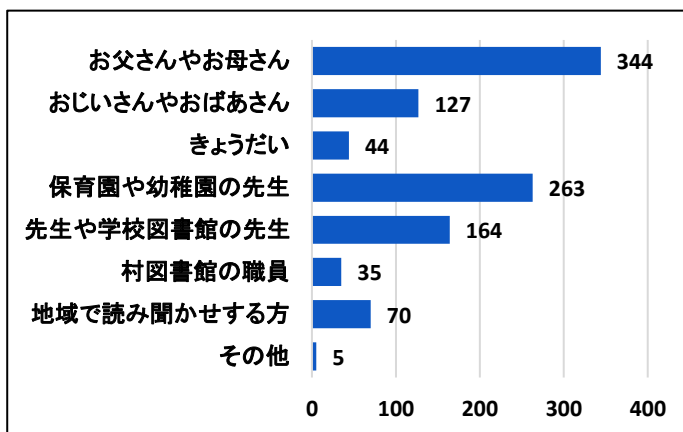
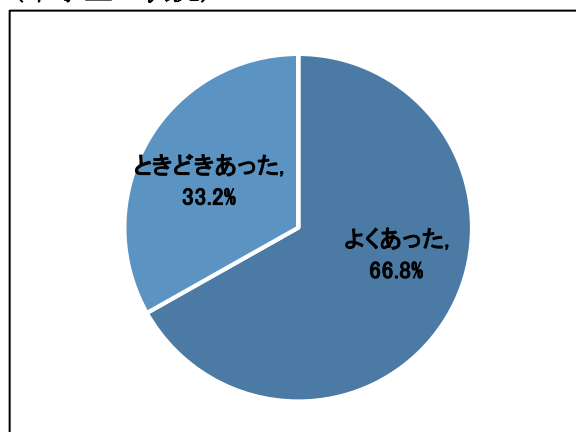
■質問「よくあった」「ときどきあった」と答えた方は、読んでくれたのは誰ですか。(複数回答可)

(小学生の状況)



回答	回答数	今回	H29	H24
よくあった	470	60.7%	63.2%	63.2%
ときどきあった	220	28.4%	26.9%	28.3%
ほとんどなかった	25	3.2%	2.9%	2.8%
おぼえていない	59	7.6%	6.4%	5.7%
無回答	0	0.0%	0.6%	0.0%
合計	774	100.0%	100.0%	100.0%

(中学生の状況)



回答	回答数	今回	H29	H24
よくあった	268	66.8%	60.3%	46.7%
ときどきあった	133	33.2%	23.2%	34.8%
ほとんどなかった	0	0.0%	4.2%	6.2%
おぼえていない	0	0.0%	10.1%	12.3%
無回答	0	0.0%	2.1%	0.0%
合計	401	100.0%	100.0%	100.0%

「よくあった」「ときどきあった」と回答した人は、小学生は89.1%、中学生は100%でした。「読んでくれた人は誰ですか」という質問に、小学生、中学生ともに「お父さんやお母さん」が最も多く、次に「保育園や幼稚園

の先生」という回答が続きました。「先生や学校図書館の先生」、「おじいさんやおばあさん」などの回答も多く、「地域で読み聞かせをする方」など地域の大人も入っていました。中学生になっても幼い頃の読み聞かせの体験を覚えていて、「誰が読んでくれたか」まで覚えていることから、子どもたちが読み聞かせを通じて多くの人とつながりを持っていることがわかりました。

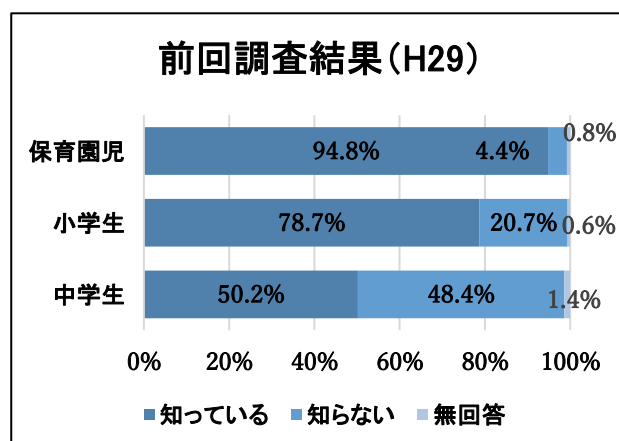
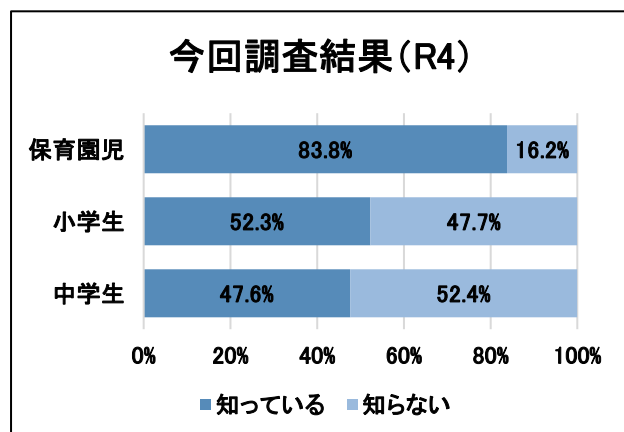
【取組1に対してのまとめ】

第三次計画の中で取り組んできた「読書のよろこび、わかちあってつながろう！」について、保育園児の家庭では98.9%が絵本の読み聞かせを「週1回～2回」以上実施していることや、小中学生では、読んでおもしろかった本について、小学生は80.1%、中学生は82.5%が友達や家族や先生、地域の人と話題にしていることがわかります。また、「小さい頃、絵本を読んでもらった体験」について、小学生は89.1%、中学生は100%が家族や先生、地域の人に読んでもらった経験があると回答しています。

このことから、今回の取組のなかで、家族、友達、先生や地域の人とのつながりの中で子どもの読書活動が展開されていることがわかります。

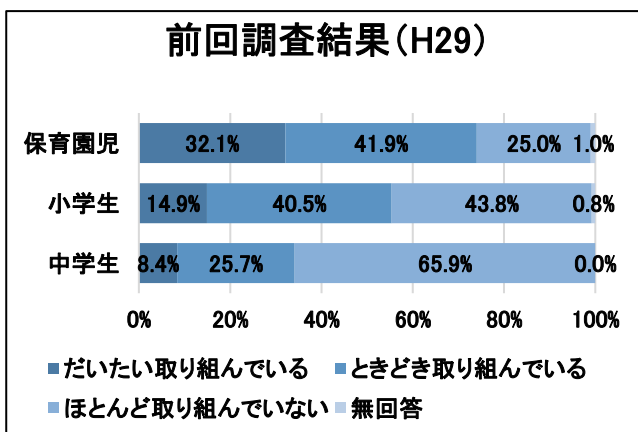
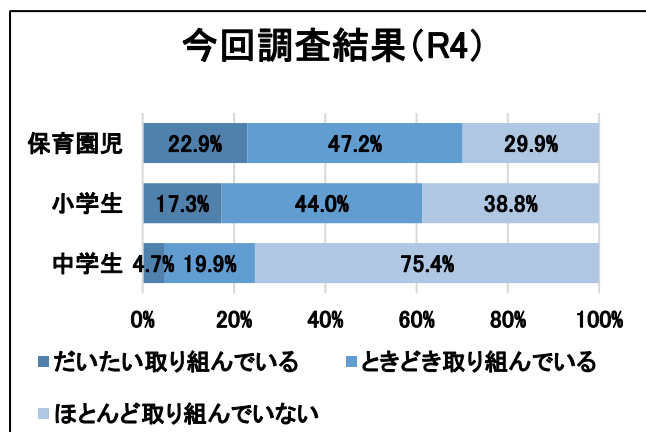
② 取組2 “毎月23日は、メディアの利用を控え、 読書でつながる楽しい日にしよう！”の浸透度

■質問 村では「毎月23日はメディアの利用を控え、読書でつながる楽しい日にしよう！」、「毎月23日は、共育の日。メディアの利用を控え(アウトメディアデー)、家族との触れ合いを楽しむ日」として毎月23日に取り組んでいます。知っていますか。



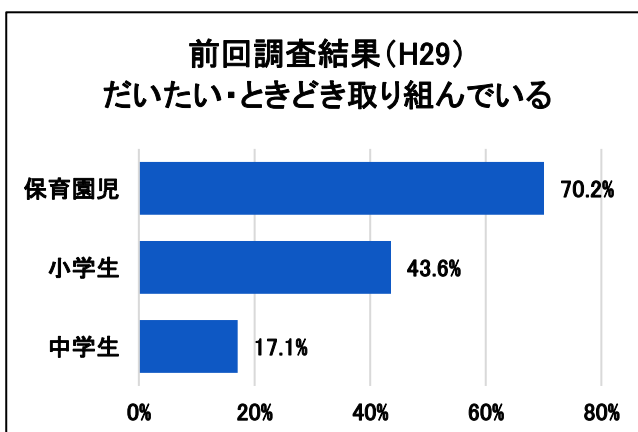
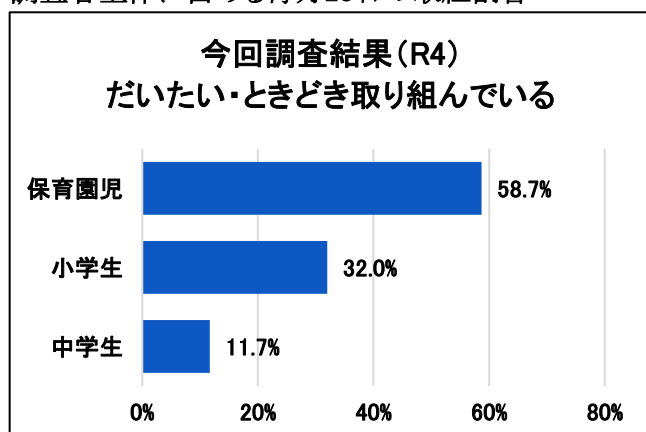
上記の質問で「知っている」と答えた人は、保育園児(保護者)は83.8%、小学生は52.3%、中学生は47.6%でした。保育園児は8割、小中学生はおよそ5割程度の人が毎月23日の取組を知っているようです。ただH29の調査結果と比べると、保育園児94.8%→83.8%、小学生78.7%→52.3%、中学生は50.2%→47.6%と、「知っている」と回答した人は減少しています。

■質問 上記の質問で「知っている」と答えた人で、「だいたい取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」人は、村で取り組む「毎月23日はメディアの利用を控え、読書でつながる楽しい日にしよう!」、「毎月23日は、共育の日。メディアの利用を控え(アウトメディアデー)、家族との触れ合いを楽しむ日」のいずれかに取り組んでいますか。



上記の質問で「知っている」と答えた人で、「だいたい取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」と答えた人は、保育園児(保護者)は70.1%、小学生は61.3%、中学生は24.6%でした。保育園児、小学生と比較すると、中学生の取組は少ないようです。H29の調査結果と比較すると、「だいたい取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」と回答した人は、小学生55.4%→61.3%と増えていますが、保育園児74.0%→70.1%、中学生は34.1%→24.6%と、減少しています。

調査者全体に占める毎月23日の取組割合



調査者全体に占める「毎月23日の取組割合」(だいたい取り組んでいる・ときどき取り組んでいる)は、保育園児58.7%、小学生は32.0%、中学生は11.7%でした。H29の調査結果と比較すると、保育園児70.2%→58.7%、小学生は43.6%→32.0%、中学生は17.1%→11.7%と取組割合が減少しています。

【取組2に対してのまとめ】

第三次計画の中で取り組んできた「毎月23日の取組」ですが、およそ保育園児(保護者)は8割、小中学生はおよそ5割程度の人は「知っている」ようです。調査者全体での取組状況を見ると、「だいたい取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」と回答した人は保育園児6割弱、小学生3割、中学生は1割で、H29の調査結果より取組割合が少なくなっています。

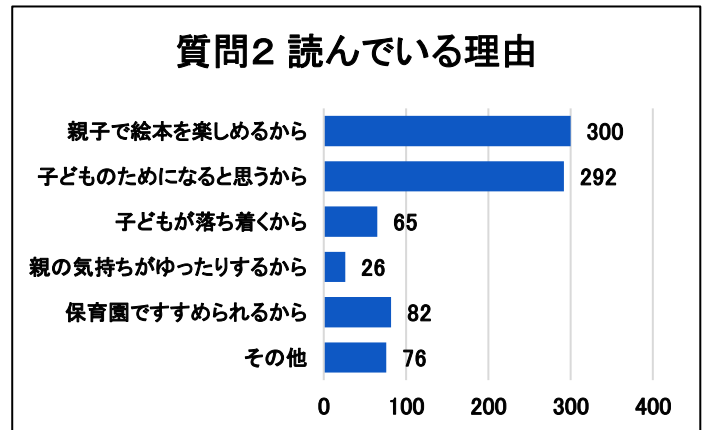
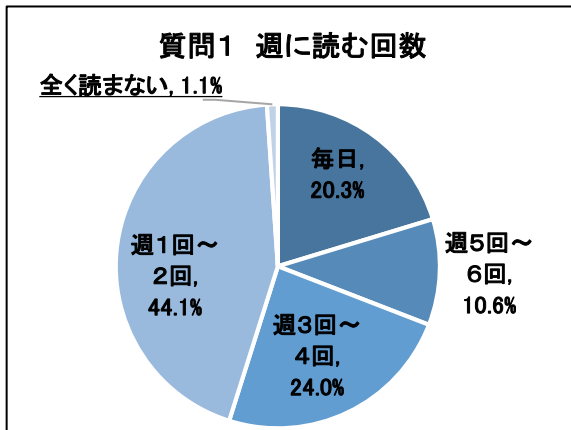
(3) アンケート結果から見える子どもの読書状況

① 読書への興味・関心について

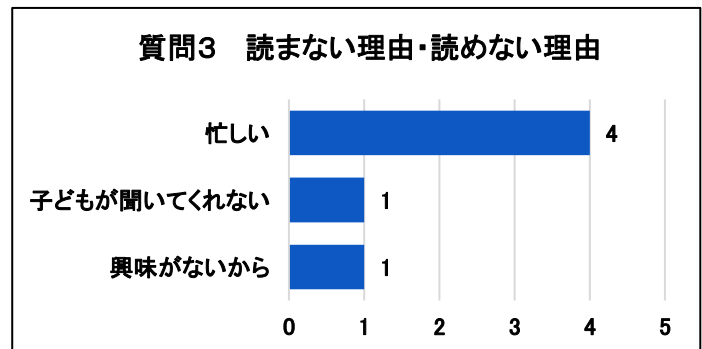
「子どもの読書離れ」が進んでいると言われていますが、実際に当村で読書離れの傾向があるのか、また新型コロナウイルス感染症による生活環境の変化より、子どもの読書活動状況にも影響があるのか、読書への興味・関心についてアンケート調査しました。

- 質問1 お子さんにご家庭で週にどのくらい絵本を読んでいますか。
- 質問2 「読んでいる」と答えた方は、読んでいる理由は何ですか。(複数回答可)
- 質問3 「全く読まない」と答えた方は、読まない理由・読めない理由は何ですか。(複数回答可)

(保育園児の状況)



【読む理由】その他の主な記述
 子どもが読んで欲しいというから(41)／子どもが好きだから(11)／就寝前の習慣になっているから(7)／保育園で借りてくるから(5)
 親子だけの時間を作れるから／動画を見る時間を少なくしたいから(2)



保護者が子どもに絵本を「読む理由」は、「親子で楽しめるから」「子どものためになると思うから」が主な理由です。その他として「子どもが読んで欲しいというから」(41)、「子どもが好きだから」(11)、「保育園から借りてくるから」(5)も多く、子どもの要求や保育園での絵本の貸出が家庭読書につながっていることがわかります。

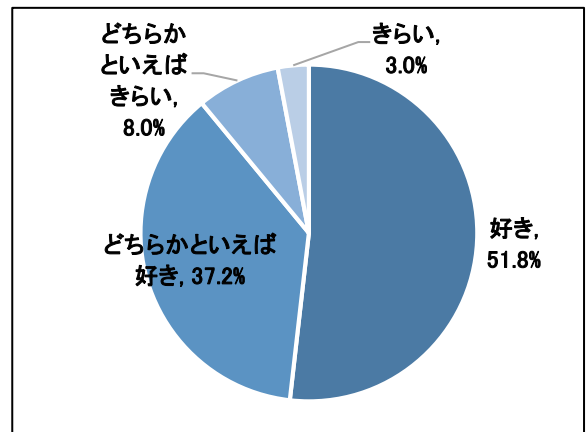
読まない理由・読めない理由は、「忙しい」(4)、「子どもが聞いてくれないから」(1)、「興味がないから」(1)です。

① 読書への興味・関心について

■質問 あなたは本を読むことが好きですか。

(小学生の状況)

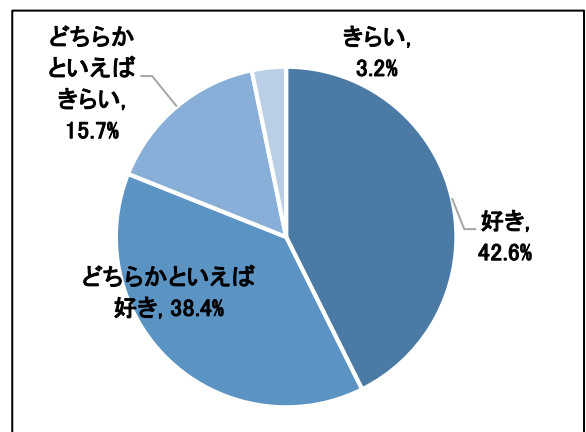
回答	回答数	今回	H29	H24
好き	401	51.8%	50.9%	54.1%
どちらかといえば好き	288	37.2%	35.5%	36.9%
どちらかといえば嫌い	62	8.0%	10.6%	6.7%
嫌い	23	3.0%	2.8%	2.3%
無回答	0	0.0%	0.2%	0.0%
合計	774	100.0%	100.0%	100.0%



「好き」「どちらかといえば好き」が89.0%で、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」が11.0%となっています。
「どちらかといえば嫌い」「嫌い」はH29の調査結果13.4%→11.0%とやや減少しています。
H29の調査結果と比べると、子どもたちの読書への関心は大きな変化はみられません。

(中学生の状況)

回答	回答数	今回	H29	H24
好き	171	42.6%	39.7%	52.7%
どちらかといえば好き	154	38.4%	39.0%	38.9%
どちらかといえば嫌い	63	15.7%	15.7%	6.2%
嫌い	13	3.2%	5.2%	2.2%
無回答	0	0.0%	0.5%	0.0%
合計	401	100.0%	100.0%	100.0%



「好き」「どちらかといえば好き」81.0%で、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」が18.9%で、H29の調査結果と大きな変化は見られません。

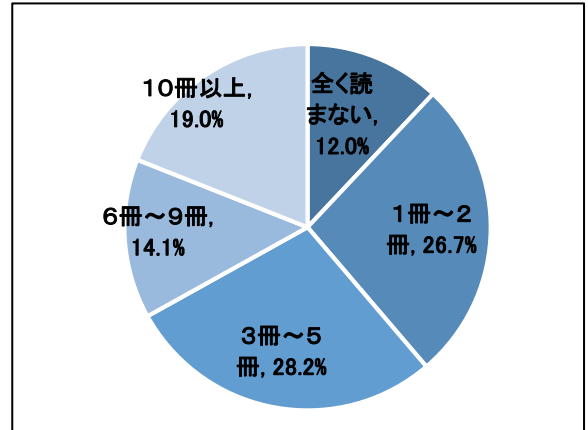
小学生の調査結果と比べると、「嫌い」は小中学生ともに、ほぼ3.0%程度の同じ割合であるのに対し、「どちらかといえば嫌い」が小学生8.0%、中学生が15.7%ということから、中学生になると「やや嫌い」と感じる人が増えているようです。

① 読書への興味・関心について

■質問 学校以外で、最近1か月に本を何冊読みましたか。(コミックや雑誌をのぞく)

(小学生の状況)

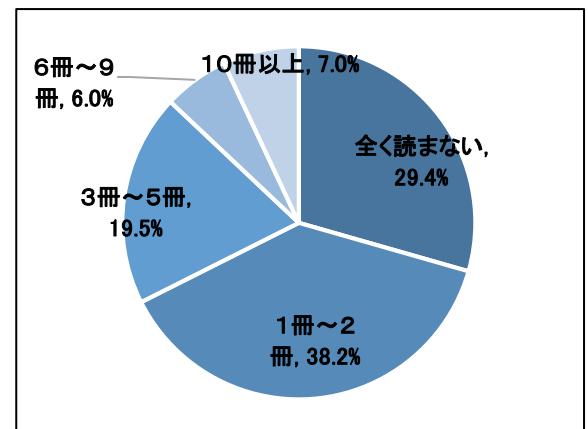
回答	回答数	今回	H29	H24
全く読まない	93	12.0%	12.4%	12.2%
1冊～2冊	207	26.7%	29.3%	23.2%
3冊～5冊	218	28.2%	27.7%	25.5%
6冊～9冊	109	14.1%	9.9%	17.0%
10冊以上	147	19.0%	20.6%	22.0%
無回答	0	0.0%	0.1%	0.1%
合計	774	100.0%	100.0%	100.0%



「学校以外で1か月に読む冊数」は、「3冊～5冊」が28.2%、次に「1冊～2冊」が26.7%、「10冊以上」は19.0%でした。H29の調査結果と比べると、「全く読まない」は12.4%→12.0%と横ばいで、読む冊数は、「3冊～5冊」が27.7%→28.2%、「6冊～9冊」が9.9%→14.1%と増えています。

(中学生の状況)

回答	回答数	今回	H29	H24
全く読まない	118	29.4%	34.5%	17.4%
1冊～2冊	153	38.2%	35.4%	42.2%
3冊～5冊	78	19.5%	19.7%	24.5%
6冊～9冊	24	6.0%	4.9%	8.6%
10冊以上	28	7.0%	5.4%	7.3%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%
合計	401	100.0%	100.0%	100.0%



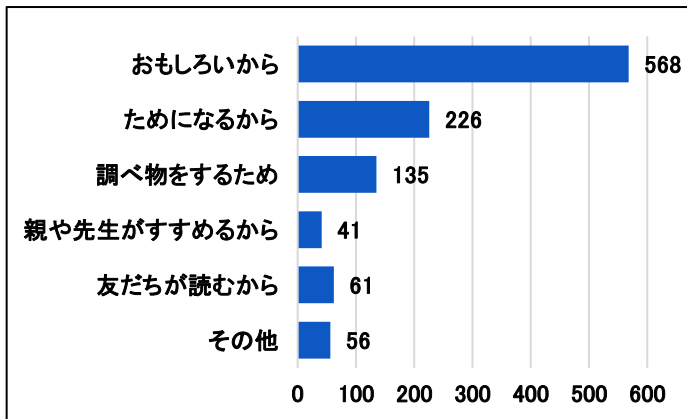
H29の調査結果と比べると、「全く読まない」が34.5%→29.4% (118人)とやや減少しています。「読む冊数」は「6冊～9冊」4.9%→6.0%、「10冊以上」5.4%→7.0%と増えています。在宅時間が増える中、家庭で読書する人が増えているようです。

ただ、「全く読まない」という人は小学生では12.0%、中学生では29.4%であることから、中学生になると家庭で読書する人が少なくなっていることがわかります。

① 読書への興味・関心について

■質問「本を読んだ」と答えた方は、本を読む理由についてお答えください。（複数回答可）

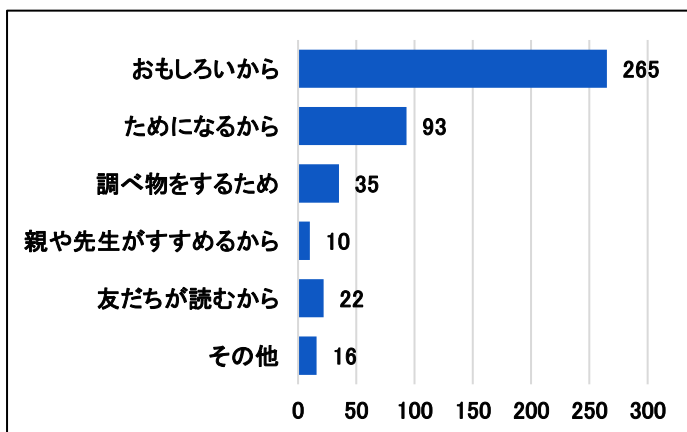
（小学生の状況）



その他の主な記述

ひまだから(10)／好きだから・楽しいから(10)
 いろんなことを学べるから(7)／ゲームなどより
 目が悪くなりにくいから／兄弟に読み聞かせる
 ため／図書館が好き・居心地が良い／言葉を
 かまないようにしたり、文字とか覚えるから／想
 像力が広がるから／落ち着くから／好きな文
 豪がいる、いろんなことに役立つから

（中学生の状況）



その他の主な記述

本を読むと自分の世界に入れる(2)／ひまだ
 から(2)／興味がわくから／読むことが習慣だ
 から／好きなアニメのノベライズだから／自分
 の趣味気分転換

読む理由として、「おもしろいから」が小中学生ともに最も多く、「ためになるから」が続きます。「調べ物をするため」という回答からは、小学生に比べ中学生になると本で調べることが少なくなることがわかります。また「親や先生がすすめるから」、「友だちが読むから」などの回答が、小中学生ともにあることから、「人」がきっかけで本を読む人があることもわかりました。

【読書への興味・関心についてのまとめ】

保育園児の家庭では、98.9%が「週1回～2回」以上は、絵本の読み聞かせを実施しています。また「本を読むこと」について「好き」「どちらかと言えば好き」と小学生89.0%、中学生の81.0%が回答していることから、コロナ禍においても、読書への興味・関心が低下していないことがわかります。小中学生ともに読書冊数もやや増えており、読書への意欲が維持できていることがうかがえます。

② メディアとのかかわりについて

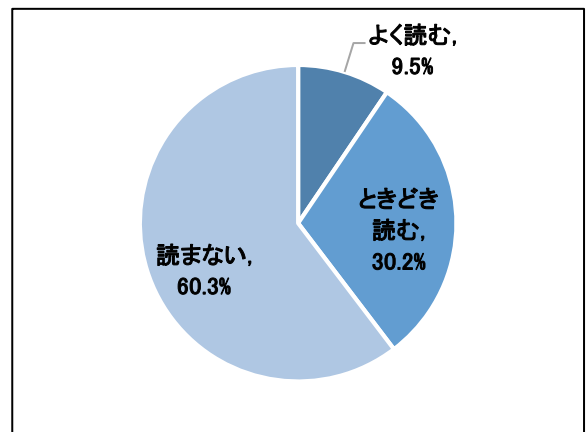
② メディアとのかかわりについて

令和2年1月から新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもを取り巻く生活環境も変わりました。在宅時間が増え、学校では一人一台端末での学びが進められています。子どもたちの環境にどんな変化があるのか、メディアの利用について、中学生を対象にアンケート調査をしました。

■質問 パソコンや携帯電話、スマートフォンで「電子書籍」(電子ブック、デジタル書籍)を読みますか。
(コミック、雑誌はのぞく)

(中学生の状況)

回答	回答数	今回	H29
よく読む	38	9.5%	8.0%
ときどき読む	121	30.2%	17.8%
読まない	242	60.3%	71.8%
無回答	0	0.0%	2.3%
合計	401	100.0%	100.0%

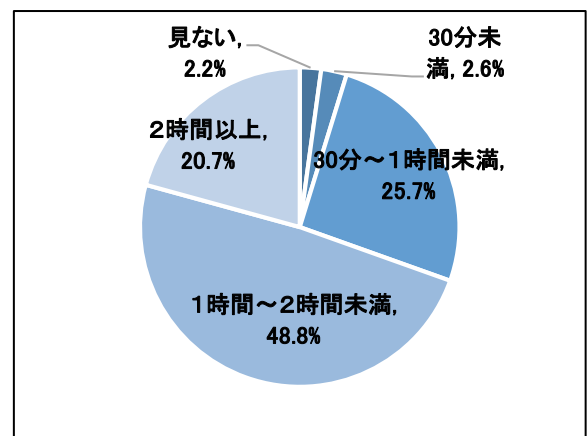


「よく読む」「ときどき読む」と答えた人が39.7%で、前回の調査結果25.8%より増えていることから、電子書籍を読む人がやや増えていることがわかります。一方で「読まない」と答えた人が60.3%いることから、メディアの浸透が進んでも紙の本で読書している人が多いようです。

■質問 平日、テレビやDVDを見る時間やネット系動画を見る時間は1日合計どのくらいですか。

(保育園児の状況)

回答	回答数	今回	H29	H24
見ない	10	2.2%	1.7%	2.1%
30分未満	12	2.6%	7.7%	8.1%
30分～1時間未満	119	25.7%	31.6%	32.0%
1時間～2時間未満	226	48.8%	39.6%	39.7%
2時間以上	96	20.7%	18.4%	17.9%
無回答	0	0.0%	1.0%	0.2%
合計	463	100.0%	100.0%	100.0%

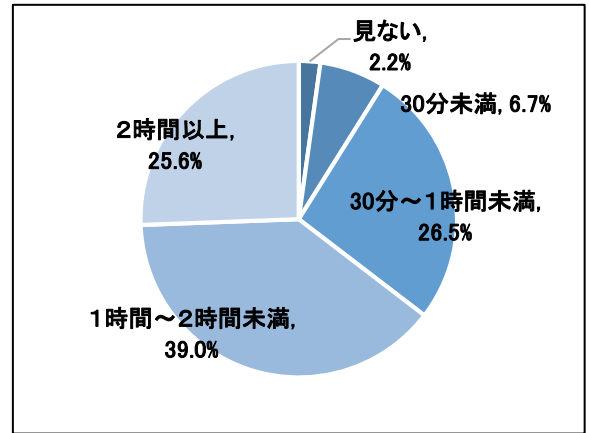


「1時間～2時間未満」が48.8%で最も多く、ついで「30分～1時間未満」が25.7%、「2時間以上」が20.7%ありました。H29の調査結果と比べると、「1時間～2時間未満」が39.6%→48.8%と増えています。

② メディアとのかかわりについて

(小学生の状況)

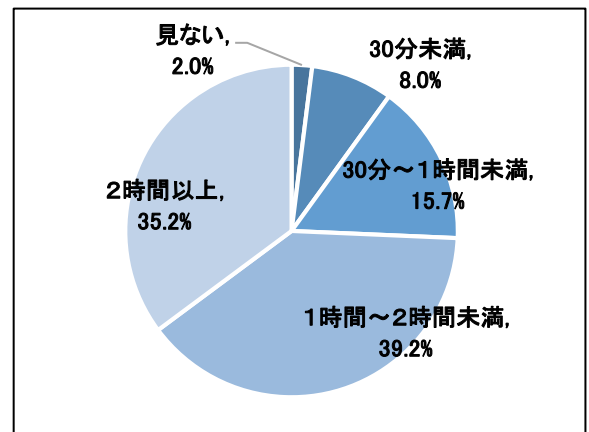
回答	回答数	今回	H29	H24
見ない	17	2.2%	2.6%	2.6%
30分未満	52	6.7%	9.9%	9.0%
30分～1時間未満	205	26.5%	24.5%	26.7%
1時間～2時間未満	302	39.0%	28.5%	33.8%
2時間以上	198	25.6%	31.5%	26.6%
無回答	0	0.0%	2.9%	1.3%
合計	774	100.0%	100.0%	100.0%



H29の調査結果と比べると、「1時間～2時間未満」が28.5%→39.0%に増えています。平日に限定していますが、25.6% (198人) の人がテレビや動画を「2時間以上」視聴しているようです。H29の調査結果と比べると、「2時間以上」の視聴は31.5%→25.6%と減少しています。

(中学生の状況)

回答	回答数	今回	H29	H24
見ない	8	2.0%	1.9%	2.6%
30分未満	32	8.0%	7.3%	8.0%
30分～1時間未満	63	15.7%	25.6%	21.1%
1時間～2時間未満	157	39.2%	29.6%	37.0%
2時間以上	141	35.2%	34.0%	31.2%
無回答	0	0.0%	1.6%	0.1%
合計	401	100%	100.0%	100.0%



R29の調査結果と比べると、「1時間～2時間未満」は29.6%→39.2%と増えており、「2時間以上」は34.0%→35.2%とやや増えています。

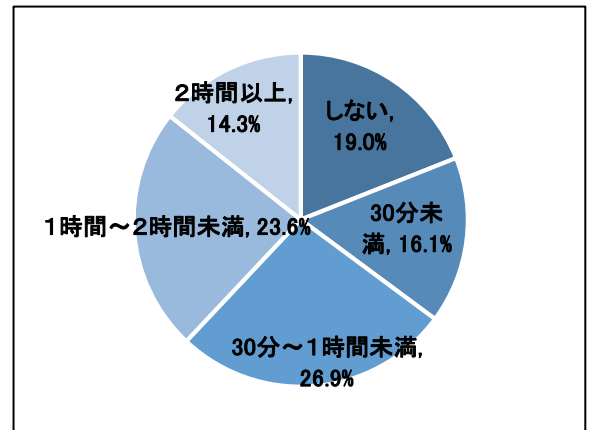
小学生の調査結果と比べると、「1時間～2時間未満」はほぼ同じ割合でしたが、「2時間以上」では小学生25.6%、中学生が35.2%という結果でした。中学生の方がテレビや動画を見る人が多いようです。

② メディアとのかかわりについて

■質問 平日、ゲーム機やパソコン、携帯電話やスマートフォンでゲームをする時間は1日合計どのくらいですか。

(小学生の状況)

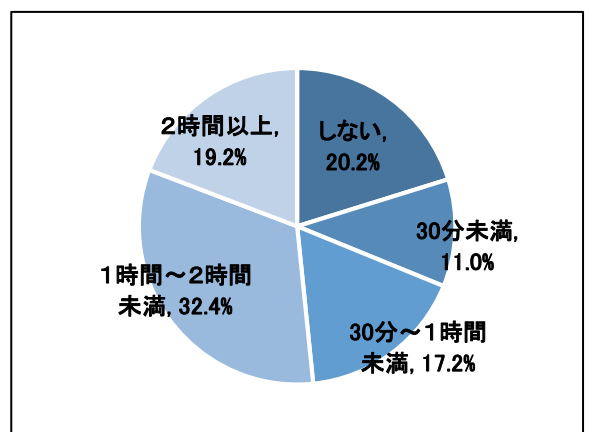
回答	回答数	今回	H29	H24
しない	147	19.0%	31.4%	37.9%
30分未満	125	16.1%	20.4%	23.5%
30分～1時間未満	208	26.9%	21.6%	21.8%
1時間～2時間未満	183	23.6%	14.3%	10.9%
2時間以上	111	14.3%	11.4%	5.6%
無回答	0	0.0%	0.9%	0.3%
合計	774	100.0%	100.0%	100.0%



H29の調査結果では「しない」が一番多く、31.4%を占めましたが、今回の調査結果では「しない」人は19.0%と減っています。「30分～1時間未満」が21.6%→26.9%、「1時間～2時間未満」14.3%→23.6%と、「ゲームをする人」や「ゲームをする時間」は増えているようです。「テレビやDVDを見る時間」と「ゲームをする時間」ともに「2時間」と回答した人は77人いました。

(中学生の状況)

回答	回答数	今回	H29	H24
しない	81	20.2%	25.1%	29.2%
30分未満	44	11.0%	18.3%	18.7%
30分～1時間未満	69	17.2%	21.6%	21.5%
1時間～2時間未満	130	32.4%	16.4%	17.4%
2時間以上	77	19.2%	16.4%	12.3%
無回答	0	0.0%	2.1%	0.9%
合計	401	100.0%	100.0%	100.0%



「しない」と回答した人は、H29の調査結果である25.1%→20.2%と減っており、およそ8割の人がゲーム機やパソコン、携帯電話、スマートフォンに触れていることがわかりました。H29の調査結果と比べると、「1時間～2時間未満」は16.4%→32.4%と倍に増え、「2時間以上」は16.4%→19.2%とやや増えています。「テレビやDVDの視聴」「ゲームをする時間」も「2時間」と答えた人が59人いました。

【メディアとのかかわりについてまとめ】

電子書籍はやや増えて4割の人が利用しているようです。テレビやDVDの視聴時間、ゲームをする時間について、保育園児・小中学生の利用時間が増えているようです。

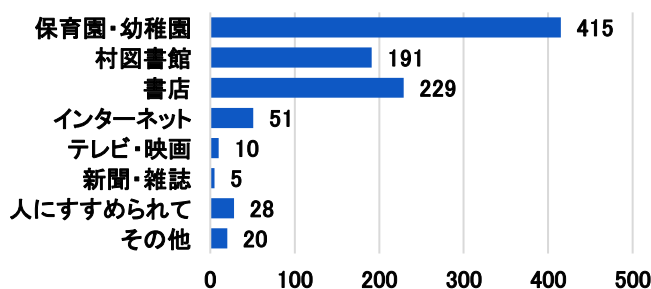
③ 本との出会いについて

③ 本との出会いについて

子どもたちは、どんな場所で絵本や本に出合っているのか、どんな情報媒体やきっかけから絵本や本を読むことにつながっているのか、「本との出会い」についてアンケート調査しました。

■質問 どこで(どのように)絵本や本に出合うことが多いですか。(複数回答可)

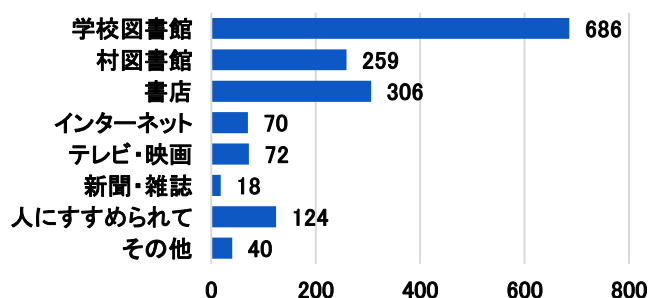
保育園児の状況



その他の主な記述

伊那市立図書館(4)／プレゼント(3)／家に本がたくさんある(2)／祖母・親戚が買ってくれる(2)／自分が読んでいた絵本(2)／SNS(2)／配架サービスを申し込んでいる／支援センター／

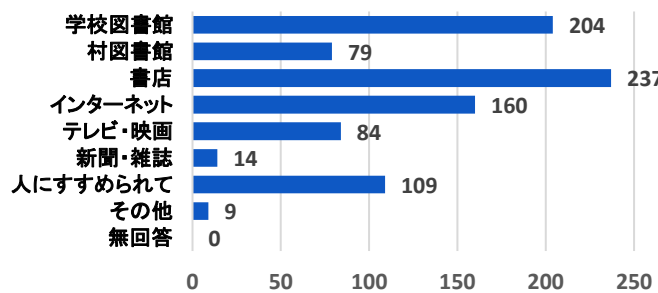
小学生の状況



その他の主な記述

家にある(13)／伊那市図書館他(6)／電子図書(3)／教材や紹介図書(4)／友達や兄弟などほかの人が読んでいるのをみて(3)／学童・児童クラブ(3)／塾・習い事(2)／特定の本屋(2)／先生が読み聞かせしてくれるのを聞いて／自分で調べる

中学生の状況



その他の主な記述

親にすすめられて(2)／楽器屋／やることがない時に出合うことが多い／表紙と題名で魅力的だと思ったものを読む／おいてある

【本との出会いについてのまとめ】

絵本や本と出合う場所として、保育園児は日中過ごす「保育園」、小学生は「学校図書館」が最も多い場所になっていますが、中学生は「書店」が最も多くなっています。中学生は、「インターネット」や「テレビ・映画」、「人にすすめられて」などの回答も多く、中学生があらゆる場所や媒体の情報をもとに、自分が読みたい本を自ら求めていることがわかります。

(4) アンケート自由記述から見える年齢別子どもの読書状況

※ 保育園児は、保護者の方による回答

(保育園児:3歳未満児)

読書のよろこび	感じていること・困っていること
・本への要求が高まってきた(1) ・一緒に読むのが楽しみ、家族の時間(3) ・言葉の成長や記憶力の高まりを感じる(6) ・自分で本を選ぶようになってきた。選ぶジャンルが広がってきた(3) ・保育園の貸し出しがうれしい(2) ・読み聞かせがうまくできた時は集中できる(1)	・最後まで集中してくれない(10) ・時間がとれない(6) ・破いてしまう(2) ・読み聞かせがうまくできない(1) ・好みが偏ってきた(2) ・父親の協力が欲しい(1)

(保育園児:年中・年長)

読書のよろこび	感じていること・困っていること
・気に入った本は自分で読むこともある(1) ・絵を見て創作する。想像力の高まりを感じる(3) ・感情が豊かになる。悪いことをしてはいけない判断力が自然につく(2) ・集中力が高まり、ジャンルが広がっている(1) ・言葉が多くなり、読めるようになった。記憶力が高まった(7) ・楽しみの時間、落ち着く時間(3) ・保育園の貸し出しがうれしい(1)	・毎日の読書は意味があるのかな(1) ・本を広げる回数が減ってきた(1) ・途中で疑問を聞いてきて最後まで読み終えない(1) ・集中力が切れる(6) ・アニメに偏る(1) ・タブレットが楽しい(1) ・物語には興味を示さない(1) ・図鑑の読み方がわからない(1) ・時間がない(2)

※小学生1年生～3年生は、児童が保護者の方と一緒に回答

(小学生:1・2年生)

読書のよろこび	感じていること・困っていること
・読書は楽しい(多数) ・暗記するほど何回も読む(1) ・自分で本を選ぶようになった(1) ・語彙力が高まった(1) ・読み聞かせがうまくできた時は集中できる(1) ・図書館の先生の優しさがうれしい(2)	・集中力がない(1) ・漢字が読めない。すらすら読めない(6) ・読みたい本や図鑑が少ない(2) ・コミックに興味がある(1) ・ゲーム、ユーチューブ、DVDの利用が多くなっている(2) ・文章が書けない(1) ・学校の読書の時間を増やしてほしい(1) ・電子図書がほしい(1)

※小学生4年生～6年生は、児童による回答

(小学生:3・4年生)

読書のよこび	感じていること・困っていること
・読書の幅をさらに広げたい、面白い(多数) ・学校の推薦図書が参考になる(1) ・宿題に読書がでるのがよいです(1) ・読解力、記憶力が高まる(1) ・本の中に入った気分(1) ・いろんなことが知れる、知識がつく(4) ・字を覚えたり、話すときにかまなくなった(1) ・本を読むと落ち着く(2)	・読めない漢字が多く困る(3) ・ゲーム、タブレットが面白い(2) ・漫画が面白い(1) ・コロナで本が借りにくい(1) ・学年にあった本を読ませたい(1)

(小学生:5・6年生)

読書のよこび	感じていること・困っていること
・本の世界に入ることができる(1) ・楽しむだけでなく勉強になる(4) ・ストーリーが面白い。物語や小説が面白い(2) ・読書の時間を増やしてほしい(1) ・生活で役立つ(2) ・本はいろいろなことを教えてくれる(1) ・いろいろなことがわかる、ためになる(2)	・アニメ系の小説が読みたい(1) ・好きな文豪の本が少ない(1) ・朝読書が長い(1) ・文字を読むのが嫌だ(1) ・文章が長い(1) ・わからない漢字が多い(1) ・字が小さいから読む気にならない(1) ・読みたい本がない(1)

※中学生は、生徒による回答

(中学生)

読書のよこび	感じていること・困っていること
・国語の読解力がついた、文章力がつく、知識を高めるものだ(3) ・読むほどに楽しくなる。自分の世界に入れる(10) ・気分転換になる(1) ・読書は面白い、奥が深い(7) ・物語を通していろんなものが見えてくる(1) ・つらいときにみるといい(1)	・自分に合った本が見つからない(2) ・最後まで読み切れない(2) ・時間がない(1) ・コミックや漫画が好き(2) ・欲しい本があっても買えない(4)

【アンケート自由記述のまとめ】

保育園児 保護者の方の記述から、絵本を親子で読む場合、子どもの小さな反応を見ながら読んでいます。反応を楽しむ保護者の多くが「読書のよこび」を親子で共有できているようです。

小学生 「本の世界に入り込む」ほど夢中になって本を読む児童がいる一方で、「文字を読むのが苦手」「文章が長い」「漢字が読めない」など、言語力の弱さを自覚して読書に苦手意識を持つ児童がいます。

中学生 夢中になって読んだり、知識を高めるために読書をする生徒がいる一方で、「読んでいる途中に頭に入ってこなくなる」「話が難しく途中で諦める」など意欲はあっても本を読み深めることに難しさを感じる生徒もいるようです。

(5) 保育園・学校・地域における取組・成果と課題

第三次計画期間中の各関係機関における子どもの読書活動の取組・成果と課題についてまとめました。

ア 保育園における子どもの読書活動

＜ 重点的取組・成果 保育士から園児への読み聞かせの充実 ＞

- 登園後、昼食前、午睡前や降園前を中心にクラスごとに読み聞かせを実施しました。
- あらゆる機会に年齢、発達段階、季節に応じた絵本や紙芝居の読みきかせを行い、園児が楽しめるように工夫しました。

＜ 重点的取組・成果 毎月23日の取組推進 ＞

- 保護者に対しては、各クラス玄関にアウトメディアデー＊パネルを掲示して、啓発をしました。
- 各園の状況に応じて、園児に対しては、違うクラスの保育士が出向き、クラス(年齢)に合った読み聞かせを実施しました。読み手が変わること、さらに絵本(物語)の世界観も広がりました。

＜ その他取組・成果 ＞

- 家庭で絵本を選ぶ参考に「推薦絵本リスト」の絵本を紹介する「絵本だより」を定期的に配布しました。
- 毎月23日の取組として玄関先に掲示をしたり、おたよりで保護者に知らせたりしました。また、この日は読み手(担任)を交代しての読み聞かせの実施や、「取組カード」の配布など各園で工夫をしました。
- 継続的な試みとして読書週間を年2回設けました。通常、絵本の貸出は1冊のところ、読書週間中は絵本の貸出を2冊にして、家庭で絵本を読む機会を増やし「読書カード」への記入や、保護者から感想も寄せていただきました。
- 読書週間に合わせて、家庭における読み聞かせの重要性について伝え、理解を促すおたよりを配布しました。
- 週1回、保育園や図書館の絵本を家庭に貸し出して、親子で絵本を楽しめるよう取り組みました。
- 各園の実情に応じて、読み聞かせに使用した絵本を玄関先に展示して、保護者や園児に絵本の紹介をしました。
- 各園の実情に応じて、村図書館や南部小学校図書館にクラス単位で出かけ、直接絵本を選ぶ体験をしました。また、図書館で司書からの読み聞かせを通じて、公共図書館を知る機会を大事にしました。

＜ 課題 ＞

- 園内ではコロナ禍において対策を取りながら、読み聞かせを継続してきました。ただ、マスクを着用しての読み聞かせは読み手の表情が伝わりにくく、特に未満児にとっては絵本の楽しさが半減してしまうことも考えられます。
- 家庭間で絵本に対する価値観が異なります。家庭での読み聞かせに消極的な家庭に対して、親子で関わり絵本を読むことの大切さや絵本を媒体としてコミュニケーションを深めること(読んでくれた人の声や思い出が心に残っていくこと)が子どもの心の成長にどう関係していくかを分かりやすく保護者に伝え、読み聞かせ等を推進していく必要があります。

イ 学校における子どもの読書活動

① 小学校における読書活動

＜ 重点的取組・成果 児童や先生による図書紹介 ＞ ※各学校の実情に応じた取組

- 図書委員会による本の紹介や、先生、司書による読み聞かせを実施しました。
- 全校生徒が書く「私の心に残った本」を冊子にして貸出を行いました。
- イラストコンテスト＊や、ビブリオバトル＊、本のクイズ、貸出ランキングなどのイベントを実施して、本の情報を伝えました。
- 読書に関する児童のつぶやきや喜びを、「ほんわかエピソード」や「ハッピーニュース」として、学校図書館だよりで紹介しました。

＜ 重点的取組・成果 毎月23日の取組推進 ＞

- 毎月の学校図書館だよりや校内放送で「毎月23日の取組」を紹介したり、図書委員会による読み聞かせを行いました。
- 図書館オリエンテーションの機会に取組を伝えました。

＜ その他取組・成果 ＞

- 週1～2回一斉読書(朝読書＊)を実施しました。静かに読書に取り組み、授業前に心を落ち着かせてから学校生活に入っていくことができました。
- 図書館利用のオリエンテーション＊や、読書週間＊・読書旬間＊に読書に関連したイベントを実施しました。具体的には、コラボ献立＊、イラストコンテスト＊、ビブリオバトル、図書館クイズ、私の心に残った本、しおりのプレゼント、図書委員や先生方による推薦図書の紹介や読み聞かせ、地域ボランティアによる読み聞かせ、授業に関連した図書の展示など、児童が読書に興味を持つような環境づくり・イベントを実施しました。
- 週1時間の図書館利用時には、積極的に新刊本、教科書関連本、話題本の読み聞かせを行いました。また新聞記事も紹介し、それに関連した本の紹介も行いました。
- 親子読書推進のため、授業参観などに合わせ、スペースの広い廊下を利用して図書の展示を実施するなど、家庭での読書活動を促進しました。
- 家庭への働きかけとして、読書週間や読書旬間中、「読書カード」を作成して、児童には読んだ本の読書記録を記入、保護者の方には一緒に読書をした感想の記入をお願いしました。
- 保護者の方の「おすすめ本」や「思い出の本」を「おすすめ本リスト」として、各家庭に配布しました。
＜新規＞
- 児童がいくつかの本から読みたい本にシールを貼る選書イベントや、書店の本を展示して直接選ぶミニ選書会＊を実施しました。＜新規＞
- 各教科の学習を進める上で必要な参考図書の充実を図り、授業に活用しました。
- 地域のボランティアの協力により、読み聞かせなどの児童の読書活動を充実させることができました。
- 定期的に学校図書館だよりを発行しました。
- 本を探しやすくするため、配架の工夫をしました。
- 一部の時間帯を地域開放している南部小学校図書館では、おはなし会や廃棄雑誌のプレゼントの実施、社会開放(地域)向けの図書館だよりの発行などを行い、図書館の利用促進に努めました。

＜ 課題 ＞

- 「毎月23日の取組啓発」が継続して実施できなかったため、取組が定着していません。まずは、「23日の取組」について児童や保護者に伝えていく必要があります。
- コロナ禍、コロナ対策により「密」を避けるため、内容によりイベントの縮小や見合わせをしました。新たな工夫をしての実施が必要です。
- コロナ対策として、地域のボランティアの読み聞かせを見合わせる事が多くありました。地域の方による読み聞かせ体験は大きくなっていても覚えているため、可能な限り実施をしていくように調整します。
- 児童が「絵本」に続き、自ら「物語」を楽しめるようになるには、本を読む力を身につけていくことが必要です。そのためには、読書の幅が広がるような本を用意し、いつでも児童が興味ある本を選べるようにしていきます。
- 児童数が増えているため、一層の図書の充実とともに、古くなった図書の入替が必要です。
- 地域開放を行う南部小学校図書館では、児童書の充実に伴い、一般書のスペースが少なくなってきました。書架に限りがありますが、親子での図書館利用を促すには一般書の充実も必要です。

② 中学校における読書活動

＜ 重点的取組・成果 生徒による図書紹介 ＞

- 人と本を結ぶ取組として、図書委員会企画による「私の心に残った本」や「おすすめ本の紹介」を実施しました。
- 令和3年度から校内放送を使用してビブリオバトルを実施しました。

＜ 重点的取組・成果 選書体験の充実 ＞

- 購入候補の本を掲示して、生徒が読みたい本にシールを貼ることを通し、購入の参考にしました。
- 令和3年度は図書委員会による校内選書を実施しましたが、令和4年度は実施ができませんでした。（※夏休みに職員向けの選書会は実施）

＜ 重点的取組・成果 毎月23日の取組推進 ＞

- 具体的な取組が実施できていなかったため、令和4年度から校内放送で呼びかけをしました。

＜ その他取組・成果 ＞

- 図書館利用時に読み聞かせを実施しました。電子黒板と書画カメラを利用し、コロナ禍でも密にならずに行うことができました。＜新規＞
- 特別日課以外に毎朝実施している一斉朝読書では心を落ち着けて読書に取り組みました。
- 図書館掲示板を使い、購入図書・推薦図書の紹介、各種ポスターや新聞等の展示や掲示を行い、図書館からの情報を随時提供しました。また「詩の掲示」を行い、普段読まないような本にも関心が持てるように工夫しました。
- 学校図書館に親しんでもらうため、図書館オリエンテーションを実施し、「利用の決まり」が記してあるしおりを配布しました。
- 読書週間・読書旬間には、読み聞かせ・ビブリオバトル・選書会・図書委員会によるおすすめ本紹介カードの掲示など生徒が読書に興味を持つようなイベントを実施しました。

- 読書の傾向を知るため、アンケートを行い、図書購入の参考にしました。
- 生徒の心の糧になる図書や読書意欲を喚起すると思われる図書、最新のデータが掲載されている図書を購入して、図書資料の充実を図りました。また生徒や職員から要望のあった図書の購入や、村図書館から借り受けを行い、図書の提供をしました。
- 定期的に学校図書館だよりを発行しました。

＜課題＞

- 毎月23日の取組が浸透していません。図書館だより・校内放送での呼びかけにより周知していく必要があります。
- 図書館を全く利用しない生徒もいます。校内放送・ICTを活用し、利用の呼びかけを行っていく必要があります。
- 生徒の読みたい本と読んで欲しい本が一致しません。選書会等、一緒に本を探していく機会が必要です。また、生徒の発達段階を考慮した読み聞かせやブックトークを行い、「中学生に読んで欲しい本」にも目を向けさせる必要があります。
- 図書館を使った調べ方・情報の収集の仕方・まとめ方を、著作権にも触れながら学ぶ時間が確保されていないのが現状です。生徒が図書館を有効に活用できるように、調べ学習のためのレファレンス＊演習が必要です。
- コロナ禍で地域のボランティアに読み聞かせをお願いする機会が少なかったため、今後は状況に応じてボランティアと連携・協力して、生徒の読書活動を推進していく必要があります。
- 蔵書数が「学校図書館図書標準＊」に達していないため、図書の充実を図るとともに保存スペースや設備の整備について検討していく必要があります。

ウ 地域における子どもの読書活動

① 図書館における読書活動

＜重点的取組・成果 子どもや大人による図書紹介＞

- 読書週間や夏休み期間を利用して、来館した子どもに果物の形をした用紙に「おすすめ本」を書いてもらい、「読書の実を育てよう」と題して館内に掲示しました。
- 期間限定で「読書通帳」を作成しました。「読書通帳」の中から自身で「一番のおすすめ本」を選び、本の表紙と「おすすめの一言」を館内に掲示しました。
- 利用者からの「おすすめ本」コーナーを設置しました。「絵本」の紹介に比べ、「児童書」の紹介が少ないのが課題です。

＜重点的取組・成果 読書エピソードの紹介＞

- 職員や一般の方による読書エピソードは、図書だよりや館内で数回掲示できましたが、子ども向けの読書エピソードの収集・紹介が定期的に実施できませんでした。以前は館内でゆっくり過ごす親子連れや小学生が多かったため、会話から読書エピソードを聞く機会があったのですが、コロナ禍、館内での会話を控えたため収集が出来ず、別の方法でも収集を実施しなかったことが主な理由です。

＜ 重点的取組・成果 毎月23日の取組推進 ＞

○「子ども読書の日(4月23日)」と「読書週間(10/27～11/9)」には、23日の取組を紹介できました。「毎月23日の取組」については、令和2年度からはコロナ対策に集中してしまい、村の図書館情報センターとして積極的な発信ができませんでした。

＜ その他取組・成果 ＞

○コロナ禍で制限を設けながら乳幼児向けのおはなし会、幼児向け・小学低学年向けのおはなし会を実施しました。幼児向けのおはなし会では、地域ボランティアの協力を得て、バラエティに富んだ内容で実施できました。

○ファーストブック事業＊(H21～)として7か月児、セカンドブック事業＊(H25～)として3歳児に絵本をプレゼントしました。その場でプレゼントの絵本を読む親子の姿が見られました。

○「本に出会う」きっかけの1つとして、年1回読書感想文コンクールを実施しました。感想文には「他の作品も読みたい」と読書の広がりを感じさせる内容や高学年になると「自分も〇〇のように生きたい」など、主人公と自分の生き方を重ねる感想文が寄せられました。

○出前講座として、子育て支援センター「すくすくはうす」、地区公民館でおはなし会を実施できました。

○図書の貸出を通じて、保育園、学校、保健センター、放課後児童クラブ等の読書活動を支援することができました。近隣の保育園から、定期的に園児が来館して直接自分で絵本を選ぶこともありました。そのことがきっかけとなり、園児が保護者と図書館に来館して、新たに利用カードを作るケースも多くありました。

○定期的に図書館だよりを発行しました。

○平成28年度から令和4年度の図書館年代別利用状況は下表のとおりです。

コロナ対策として、館内でのマスク着用の呼びかけもあり、幼児から中学生までゆっくり図書館で過ごせないため、令和2年度からは利用数に比べ、貸出点数が多くなっています。閲覧席の利用時間も制約が多かったため、中学生の学習室の利用も少なくなりましたが、令和4年度より回復の傾向があります。

(貸出状況:利用者人数)

(単位:人)

対象	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
幼児	3,869	4,034	4,029	4,104	3,071	2,650
小学生	5,305	5,563	5,378	5,156	3,724	3,227
中学生	1,080	1,283	1,231	1,247	1,064	882

(貸出状況:貸出点数)

(単位:点)

対象	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
幼児	15,437	15,084	16,139	14,311	12,832	13,649
小学生	18,482	18,796	18,428	19,290	14,793	17,759
中学生	3,080	3,238	3,176	2,797	3,804	4,795

＜ 課題 ＞

○コロナ禍の影響により、令和2年度から臨時休館や開館時間の制限(滞在時間15分以内、30分以内)やマスクの徹底など、対策を実施しながら開館しました。子どもは来館せず、保護者のみが来館して

本を借りていくことも多く、以前のように子どもがゆつくり館内で絵本を読んで過ごしたり、夏休み中に調べ物をする姿が見られなくなっています。

エ 保健センターにおける読書活動

＜ 重点的取組・成果 絵本の紹介／家庭での読み聞かせについての呼びかけ ＞

○7か月児相談に実施するファーストブック絵本プレゼントの際は、絵本の良さを伝える図書館司書の話があり、実際に読む際の具体的なポイントの説明を通して家庭での読み聞かせの重要性について伝えることができました。3歳児健診のセカンドブック絵本プレゼント時に実施していた司書による絵本や紙芝居の読み聞かせが、コロナ禍によりプログラム変更になっているため見合わせになっています。

＜ 重点的取組・成果 毎月23日の取組推進 ＞

○具体的な取組が実施できませんでした。

＜ その他取組・成果 ＞

○発達・子育て支援の教室の中で、絵本や紙芝居などの読み聞かせを取り入れることで、回数を重ねるごとに、絵本に対する興味が高まり徐々に集中して聞けるようになりました。保護者の方にも、絵本の大切さを伝える機会になりました。

＜ 課題 ＞

○3歳児健診での読み聞かせが実施できておらず、子どもの反応を確認できないでいます。健診時は訪問等で自宅に伺った際や個別で面談する際に、絵本での関わりよりも、スマホやDVD等のメディアを利用している家庭を多く見かけます。動画利用を否定はせず、絵本の楽しみ方を伝えていく必要があります。

○絵本を通しての親子のコミュニケーションの大切さ、絵本を読むことで子どもの心が豊かになることなどの家庭での読み聞かせの重要性について、具体的に説明していくことが大切です。また、発達段階に応じた絵本の選び方を保護者向けに啓発していくことが必要です。

(6) 取組事例 ～伝えよう！ つながろう！ 広げていこう！ 読書のよろこび ～

第三次計画のまとめとして、家庭、保育園、学校、地域における「読書のよろこび」が伝わる事例を紹介します。記述の中に、「好き」、「楽しい」、「笑顔」、「幸せ」、「成長」、「気づき」などの「読書のよろこび」と思われる言葉や表現が含まれている事例を取り上げています。

※詳しい内容は別冊『子どもの読書活動取組事例』を参照ください。

ア 家庭での取組事例

♪ 絵本と同じ動きをします ♪

○『だるまさんが』『だるまさんと』(かがくいひろし ブロンズ新社)が大好きで、親がまだ寝ている時なのに持ってきて読んでと渡してきます。読んであげると、その絵本と同じ動きをしてとても楽しんでいきます。(3歳未満児保護者)

♪ もういっかい読んで！ ♪

○子どもと絵本を読みながら歌を歌っています。子どもが大笑いしながら「もういっかい読んで！」と言ってくれました。(3歳未満児保護者)

♪ チーターになりきって ♪

○『タタタタ』(りとうようい 鈴木出版)という絵本に出てくるチーターがサバンナを走っている様子が気に入ったようで、自分も両手を床につき、チーターになりきっていました。「チータータタタタ」と言うと片足を高くあげ、自分もチーターと同じように走っているつもりで、とても笑顔でした。それ以来動物の絵本をよく借り、娘のまねっこも含めて家族で楽しむようになりました。(3歳未満児保護者)

♪ 兄弟で楽しんでいます。祖父母とも ♪

○保育園から借りてきた本を読んでいると(2歳児に)一緒になって反応してくれたり、言葉を覚えたりしていきます。また近くにいる0歳児も興味を示していて、兄弟で楽しめて良いです。祖父母に読んでもらったりして、祖父母との時間が出来ています。(3歳未満児保護者)

♪ 自分が子どもの頃に大切だった絵本を ♪

○私が子どもの頃から大切にしていた本を、一緒に読むことが出来ています。自身が好きだった物を子どもも好きになってくれて、とても嬉しく感じました。本をとっておいてくれた母にも感謝したいです。(3歳未満児保護者)

♪ 子どもの質問に答えるために ♪

○『はじめてのなぜなにふしぎえほん』(てづかあけみ 日本科学未来館)子どもが何でも興味を持ち、質問をしてきたことから、書店で買いました。親子で一緒に考えること、話をするということにもつながっていると思います。(年少児保護者)

♪ 登場人物の名前を子どもの名前で読んでます ♪

○絵本の登場人物を自分に置き換えて読んで欲しがるので、『おやすみロジャー』(カール＝ヨハン・エーリン 三橋美穂監修 飛鳥新社)で子どもの名前を登場させたら、大喜びで「読んで」と言ってくれました。(年少児保護者)

○出てくる動物や主人公など、子どもやママ、パパ、など身近にいる人の名前に変えて読んだら盛り上がりました。(年少児保護者)

♪ 最初は読んでも全く興味がなかったのですが ♪

○絵本を小さい頃から読んでなく、最初は読んでいてもすぐどこかへ行ったり全く興味がなかったですが最近と一緒に図書館へ行き自分の好きなものを探し「これ読むー」と渡して来たりして、夜ほとんど一緒に見たり、読んでいます。(年少児保護者)

♪ 車の図鑑の楽しみ方 ♪

○『トミカシールあそび図鑑』(タカラトミー)の本。トミカの名前を言いながら一緒に探して楽しみました。(年少児保護者)

♪ 選ぶ楽しみ ♪

○お気に入りの絵本に図書館で出会うと、何回もリピートして借りています。図書館では選ぶ楽しみを見つけたようです。その中で特に気に入っていた『ふみきりかんかんかーん』(視覚デザイン研究所 くにすえたくしイラスト)は書店でも購入、言葉の出始めたころから、一緒に楽しんだ絵本です。本のある生活、私自身も大好きです。(年少児保護者)

♪ 絵本による家族の時間 ♪

○『おにやけ』(大塚健太 柴田ケイコ パイインターナショナル)という絵本が大好きで、村の図書館でよく借りていた為、家でも購入し毎日楽しめるようにしました。くり返し読み聞かせするうちに、今度は父親や弟に読んであげるようになり、聞き手も読み手も楽しむことができ、充実した家族の時間を過ごすことができました。(年少児保護者)

♪ 絵本を読んだ翌朝のほっとけーき ♪

○『こぐまちゃんのほっとけーき』(わかやまけん こぐま社)こぐまちゃんの作るほっとけーきがフワフワでおいしそう！この本を読んだ次の朝は、「ホットケーキ作るー！！」と朝から作ります！！(年中児保護者)

♪ 親も勉強になります ♪

○「からだのふしぎ」(にしもと おさむ 世界文化社)という本にはまっていて、けがはどのようにして治るのかとか、すごく興味があるようで、親も勉強になる子どもと一緒に楽しく読んでいます。(年中児保護者)

♪ こんな風に旅したいなあ～ ♪

○『バムとケロのそらのたび』(島田ゆか 文溪堂)バムとケロが飛行機に乗って、おじいちゃんの家まで、様々な場所を旅する絵本が大好きで、こんなふうに旅したいなあ～と、読むたびに言っています。(年中児保護者)

♪ 家族それぞれの読み聞かせ ♪

○いつも保育園で借りてくる絵本は、同じ本を父、母、姉にそれぞれ読んでもらい違いを楽しんでいるようです。(年長児保護者)

♪ 1ページでも遊び感覚で楽しんでいます ♪

○『ししにやいとおしょうがつ』(澤野秋文 世界文化社)この絵本の中におせち料理の中にすずを落としてしまい、すずを探そうというページがあります。ずっと話を聞いているというより、1ページでも遊び感覚で絵本を楽しむことが出来ていいなと思います。娘もこの絵本が大好きです。(年長児保護者)

イ 保育園・学校・地域における取組事例

※詳しい内容は別冊『子どもの読書活動事例集』を参照ください

取組事例①	保育園取組「週1回家庭への絵本貸出」 別冊
活動の目的	村内の保育園全園で、家庭で絵本を楽しんでもらえるように週に1回保育園から絵本(村図書館の絵本)の貸出をしています。
園児の様子	・保育園で絵本を選ぶ際は、表紙が見えるように並べます。表紙を見て、子どもたちは楽しみながら絵本を選んでいきます。選び終わると、友だちと絵本を見せ合っている子もいます。
保護者の声	・保育園で本を読んでもくれるため、内容をよくわかっていて、(娘が)よく教えてくれます。園から持って帰ってくると、すぐに「読んで！」と言ってきます。 ・保育園で毎週借りてくる本を自分で選んできているようで、「今日はこれにしたよ。」と嬉しそうに見せてくれるのが毎週の楽しみです。 ・毎週末、保育園の絵本貸出取組で借りてくる絵本は「これ先生が読んでくれて面白かったよ!」、「この絵本、保育園で読んでいる!」というものが多く、その絵本を読みながら保育園での生活を想像するのがとても楽しいです。

取組事例②	南箕輪小学校図書館取組「ほんわかエピソード」 別冊
活動の目的	第三次計画後、「つながる読書」への願いから、活動を始めました。学校図書館での児童たちの様子や関心がある本などを、全校の児童やご家庭に知ってもらうために発信しています。
児童の様子	・児童たちは本のことでいろいろと司書に話をしてくれます。おうちの方や友だちとのやり取りや本の感想などです。おたよりで本を紹介することで、その本を借りに来てくれる児童、先生もいます。
おたより『ほんわかエピソード』より	・「お父さんが辰野町出身だからこの本を読んでみるね」と教えてくれたのは、5年生のMさん。「辰野の自然のことがいろいろ書いてあって良かった」そうです。今年にはほたるたくさんいるかな。
司書が児童とのやりとり書いています	・「本きたあ？本きたあ？」と、毎日図書館に来てくれる3年生のNくん。本を読みた〜いという気持ちの時に、はやくしなくちゃ。お待たせしました！シリーズ全部そろいました！
学校図書館の声	・おたよりで紹介された児童はとても嬉しそうです。その子にも思い出の1冊になればいいなと思っています。

取組事例③	南箕輪小学校図書館取組「私の心にのこった本」 別冊
活動の目的	友だちのおすすめ本を知ること、読書の幅が広がって欲しいとの願いから実施しています。
具体的な活動	冬の読書旬間中に、全校児童に「私の心にのこった本」を書いてもらい、クラスごとに貸出しています。過去10年間分図書館に置き、自由に見たり借りたりできるようにしています。
児童の様子	・出来上がった「私の心にのこった本」の冊子は友達と一緒に楽しく見えています。自分や友だち、兄弟の何年か前の紹介文を見たり、借りていくこともあります。
学校図書館の声	・自分のクラスや気になるクラスの冊子が早く見たいと出来上がりを待っている児童が多く、楽しみにしていてくれるんだなと感じています。 ・先輩が自分の学年の時に紹介をした本を探して読んでいる児童もいます。過去ともつながっていると嬉しい気持ちになります。

取組事例④	南箕輪小学校図書館取組「おうちの方からのおすすめ本リスト」別冊
活動の目的	「つながる読書」への願いから第三次計画初年度に作成しました。おうちの方からのおすすめ本をリストにしてご家庭に配布しました。
具体的な活動	「おすすめの本」や「本にまつわる思い出」などを書いていただき、合計200冊の本を冊子で紹介して配布しました。冊子には所蔵場所「学校図書館」「村図書館」も掲載して、興味がある人はどこでも読めるようにしました。
児童・保護者の方の様子	・当初は冊子を持って本を借りに来てくれる児童もいました。
学校図書館の声	・たくさんの協力があって作成したのですが、初年度だけの取組になってしまいました。増し刷りして、ずっと学校図書館に置いて活用すべきでした。

取組事例⑤	南部小学校図書館取組「本から出たごちそう」別冊
活動の目的	本に登場する食べ物を給食メニューとして出して、食を通じて読んだことのない本とも出合える機会を作ることを目的としています。
児童の様子	・ランチルーム前に友達数人と集まって座り、本を読んでいます。また、「借りていい？」と図書館に聞きに来て借りていく児童もいました。 ・児童に感想を聞いてみると、「想像していた味と違って、おもしろかった。」「『ひみつのカレーライス』(作:井上荒野 絵:田中清代 アリス館)は具がゴロゴロしていておいしかった。」と高評価でした。
学校図書館の声	・幼い頃に絵本のイラストを見て、パクッと食べるふりをしたことが一度はあるのではないのでしょうか。夢が現実になったのが、この企画です。知っている本だからこそその楽しみもあれば、本は知らないけれども登場人物たちが食べたものとして本に親しみを持ってもらえるかもしれません。そうなったら嬉しいです。

取組事例⑥	南箕輪中学校取組「読み聞かせDAY／ビブリオバトル」別冊
活動の目的	読書旬間中に読書に興味を持ってもらうための取組として実施しています。
具体的な取組	・読み聞かせDAY 令和元年度、2年度に読み聞かせボランティアの方や、各学年の副担任の先生方をお願いし、全校一斉読み聞かせを実施しました。 ・ビブリオバトル 令和3年度、4年度は校内放送によるビブリオバトルを実施。6名の人に発表をしてもらい、「チャンプ本」を決定しました。
先生や生徒の様子	・読み聞かせDAY「授業より真剣に聞いていた」という先生からの声もありました。また特別支援学級での読み聞かせを取り入れるなどの反応もあり、先生方の利用が増えました。 ・ビブリオバトル 発表後、実際に図書館ではビブリオバトルで取り上げられた本が借りられています。今後も続けてほしいと図書委員会に意見も寄せられています。
学校図書館の声	・「読み聞かせDAY」では、絵本を読んでもらって「なつかしい」「もう一度読みたい」という気持ちになる生徒も多いようで、保育園・小学生とつながってきた読み聞かせの効果を感じました。 ・「ビブリオバトル」では校内放送を使って実施したので、全員におすすめ本を紹介することができて良かったと思います。

取組事例⑦	南箕輪中学校取組「私の心に残った本」別冊
活動の目的	先生や友達の心に残った本を知り、新たな本と出会うきっかけにしてもらうために図書委員会で行っています。
具体的な活動	心に残った本を1冊紹介しています。図書委員が配る用紙に記入してもらい、校内に掲示しています。
先生や生徒の様子	・「〇〇先生の紹介本ってこれだった？」など生徒同士で話している様子があり、掲示板を見ているようです。
学校図書館の声	・インターネットであらすじやロコミも読める時代ですが、身近な人の紹介本に生徒たちは興味を持ちやすいようです。今後も継続していきたいと考えています。
生徒の紹介文	・『タイムマシンって実現できる？』 未来の乗り物『タイムマシン』が本当に実現できるのかを科学で証明！！ぜひ読んでみてください。

取組事例⑧	保健センター取組「ファーストブック・セカンドブック事業」別冊
活動の目的	7か月児相談時に「ファーストブック」(あかちゃん絵本)を、3歳児健診時に「セカンドブック」(絵本)をプレゼントしています。子育ての忙しい時期に、絵本を介しての喜びの共有を体験することを目的としています。
子どもの様子	・ファーストブックの時は、保護者の方が乳児に「どれがいい？」と話しかけて、反応をみながら絵本を選んでいきます。 ・セカンドブックの時は、お子さんが「これがいい！」と自分で選ぶまで成長しています。「お母さんはこれがいいなあ」と親子で楽しく絵本を選んでいきます。
保護者の声	・子どもも私も絵本が好きなので、絵本をもらえることはうれしいです。 ・きょうだいで同じ絵本を選びました。なじみのある絵本が子どもは好きなんです。

取組事例⑨	南箕輪図書館取組「小さなおはなしむら」別冊
活動の目的	未就園児親子を対象に「わらべうたと絵本の読み聞かせ」をするおはなし会を実施しています。スキンシップとともに歌や言葉になじみ、親子で喜び合う体験を通して、幼い頃から読書に親しむきっかけになることを目的としています。
具体的な活動	月に2回村民センター和室で実施。0・1歳児と2・3歳児とで時間を分けて行っています。わらべうたを楽しんだ後、図書館司書が絵本の読み聞かせやパネルシアターをしています。
子どもの様子	・最初は親子だけのふれあいが、回数を重ねることで、次第に子ども同士でわらべうたを楽しむようになっていきます。
保護者の声	・3歳児と1歳児のきょうだいで毎回参加しています。回を重ねるにつれて、リズムにあわせて身体を動かしたり、そのうちにわらべうたを歌うようになりました。この間は家で「お父さんに聞かせてあげる♪」と、二人でわらべうたを父親にやってみせていました。1歳の子が、姉の真似をしてやっていて驚きました。
図書館の声	・ここ数年、お父さんの参加も時折見られるようになり、とても嬉しく思っています。コロナ禍で中止にすることもありましたが、こういう時だからこそ言葉あそび、スキンシップもできる「わらべうた」の必要性を感じています。

3 アンケート及び取組から見る第三次計画の成果と課題

第三次計画の取組について、乳幼児は、保健センターでの「ファーストブック・セカンドブック事業」や図書館での取組が幼い頃からの読書のきっかけづくりとなっています。また保育園児は、保育園での毎日行う読み聞かせや、毎週の絵本貸出取組による保護者の読み聞かせが定着しており、当村の読書活動推進の基盤となっています。小中学生は、読書への興味・関心が経年で同じ割合で推移していることから、家庭での読書活動に加え、学校図書館の継続的な取組が、児童や生徒の読書活動を支えていると考えます。

取組項目の「読書のよろこび、わかちあってつながろう！」による読書活動推進の成果が事例からうかがえ、コロナ禍において読書活動の継続につながったと言えます。一方で、子どもと保護者のなかには、読書への興味・関心はありながら、読書を楽しむことができない方もいることがアンケート調査からわかりました。今後の推進のためには、子どもの読書活動を支える関係機関が連携して、発達段階において課題となる面をサポートできるような取組を実践例を通じて進めていくことが重要になります。

メディアについては、在宅時間が増える中、アンケート調査からメディアにふれる時間が増えていますが、読書時間の確保もしていることから、子どもの読書活動は定着していると考えます。

第三次計画の取組は、アンケート調査結果や取組事例などから、コロナ禍ではありながら家庭や関係機関で読書活動が継続的に行われ、一定の成果があったとみなすことができます。第三次計画で出来なかった啓発活動を積極的に行い、第三次計画の方針・取組を継承して、第4次計画を策定し、課題を解決できるような取組を行い、推進していくことが子ども読書活動の充実につながると考えます。

第3章 第4次計画の基本方針・目標

1 基本方針

子どもが自主的に読書活動を行うようになるためには、発達段階に応じた取組により読書習慣を形成していくことが大切です。赤ちゃんの頃は、話しかけたり、わらべうたを歌ったりすることで、ことばやコミュニケーション能力を身につけます。乳幼児期になると、絵本や物語を楽しむようになり、読書を通じて感性や言葉を育んでいきます。小学生期には、読書を通じて学ぶことや知ることを喜び、幅広い内容の本に興味を持つようになります。中学生期になると、自分の興味を深める読書を求め、読書を通じて想像力を豊かなものとして、人生をより良く生きる力を育みます。こうした発達の段階に応じた読書を楽しむためには、保護者に加え、子どもの読書活動を支援する大人が子どもと継続的に読書体験を共有することで、子どもは読書意欲を高めていくことができます。

ここ数年、子どもを取り巻く社会環境は、以下のように大きく変化しています。

○新型コロナウイルス感染症の影響

「密集、密接、密閉」を避ける対策を取りながら読み聞かせや調べ学習を継続させる新たな取組が求められています。

○メディアの浸透

在宅時間も増える中、メディアにふれる時間は確実に増えています。メディアに夢中になり過ぎると、子どもの心身の発達に大きな影響を与えるという指摘もあるため、子どもの読書活動を推進していく中で注視が必要です。一方で、電子書籍により新たな学びも提供されるようになってきました。動画などのメディアも含め、優れたコンテンツについては、紙媒体と同様に利用することで、知識を広げることができます。またメディアからの情報が、本との出会いにつながっている場合もあります。

メディアの浸透により、幅広い選択肢が増えた半面、膨大な情報があふれる中で、子どもが自ら選択できる力を養うためには、今まで以上に保護者や周りの大人の関わりや見守りが大事になってきます。

○生活様式や価値観の多様化

家庭の価値観が、子どもに与える影響は大きなものがあります。家庭の状況が「読書」に関心を持つ場合でも、関心を持たない場合でも、すべての子どもが読書を楽しむことができるよう、関係機関は子どもだけでなく保護者にも読書の魅力・楽しさを伝える大きな役割を担っています。

第三次計画の取組成果と第4次計画策定のために実施したアンケート調査では、第三次計画の重点的な取組である「読書のよこび、わかちあってつながろう」の取組について、保育園児の家庭では、家庭での読み聞かせを98.9%の家庭が「週1回～2回」以上実施していることや、小中学生では、「読んでおもしろかった本」について、小学生は80.1%、中学生は82.5%が「友達」や「家族」や「先生」、「地域の人」と話題にしていることがわかりました。そして、「小さい頃、絵本を読んでもらった体験」については、小学生89.1%、中学生100%が「家族」や「先生」、「地域の人」に読んでもらったと回答しています。このことから、

コロナ禍の制約ある中でも、成長の過程において、子どもが読書を通じてさまざまな場面で「家族」、「友達」、「先生」や「地域の人」とかかわり、読書体験・読書の喜びを重ねていることがわかります。

また同じアンケート調査で、「平日、テレビやDVDを見る時間やネット動画を見る時間」について質問したところ、「1時間以上」「2時間以上」と保育園児の69.5%（H29 58.0%）、小学生の64.6%、（H29 60.0%）、中学生の74.4%（H29 63.6%）が回答しています。「平日、ゲーム機やパソコン、携帯電話やスマートフォンでゲームをする時間」の質問には、「1時間以上」「2時間以上」と、小学生の37.9%（H29 25.7%）、中学生の51.6%（H29 32.8%）が回答しています。結果として、小中学生ともに「テレビやDVDの視聴時間」、「携帯やスマホでゲームする時間」がH29の調査結果より増えています。読書の大切さを伝えると同時に、子どもの発達段階に応じた適切なメディア利用についての呼びかけも必要です。

これらの点に着目して、第4次計画では、第三次計画に引き続き、南箕輪村に育つ子どもたちが「人」とかかわる中で「本」と出会い、「本」を通じて「人」と「人」がつながり、読書のよろこびをわかちあう取組を村全体に広げていく展開を目標に掲げて進めていきます。そのために、家庭、保育園、学校、地域（図書館、保健センター、子どもの支援活動拠点等）が連携し、メディアとの関わり方についても呼びかけながら、子どもが読書を楽しめる体験ができる機会を積極的につくる継続的な支援が必要です。

南箕輪村では、当村に育つすべての子どもが読書を通じて楽しみや喜びを味わい、豊かな心を育みながら、自ら学び考える力を養い、やがては困難に直面したときも乗り越えていける「生きる力」を身につけられることを大切にしてきました。今後もこのことを大切に、子どもの成長に応じて読書に親しめる具体的な取組を掲げ、子どもの読書活動を推進するとともに、読書活動に必要な環境整備に努めます。

本計画は、南箕輪村における「子どもの読書活動」を推進するための基本的な考えや取組を示したものです。本計画の取組期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間です。

2 目標

●計画の基本目標

～ 伝えよう！ つながろう！ 広げていこう！ 読書のよろこび ～

●取組項目

取組1 “わかちあってつながろう、読書のよろこび！”



◎第三次計画における「取組事例」を活用して、読書活動を村全体に広げていきます

取組2 “毎月23日は、メディアの利用を控え、読書でつながる楽しい日にしよう！”

●成果について

第三次計画では、子どもたちが読書を通じて「生きる力」を身につけていくためには、目標の達成を数値だけで判断することは難しい面もあると考えました。そこで、数値だけでは把握できない“子どもの読書への興味や関心を高めていく具体的な取組を展開できたか”ということに重点を置きました。

第4次計画の取組成果についても、第三次計画同様、子どもの読書状況についてアンケート調査を継続し、その傾向を把握するとともに、子どもの読書活動を推進する関係機関で「取組事例」を収集することで考察します。期間中の「取組事例」を定期的に関係機関で情報共有し、子ども・家庭に発信することで、読書活動を推進していきます。

第4章 第4次計画推進のための方策

1 家庭における子どもの読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における家庭の役割

家庭は、子どもにとって健やかな育ちの基盤となる場所です。子どもが読書の習慣を身につけるために、最も身近な存在である保護者からの積極的で継続的な働きかけが大きな役割を果たします。親子で読書に親しむ時間を持って、家族間のコミュニケーションを深めるように、家庭の中で保護者が子どもの行動を温かく見守り、環境づくりをすることが大切です。また読書の時間を大切にするためにも、子どもがテレビ、ゲーム、インターネット、スマートフォン、メールに長時間費やすことがないようメディアの適切な利用を心がけたいものです。

(2) 家庭における子どもの読書活動推進のための具体的な取組

重点的取組 家族での読書体験の充実

○保育園、学校、地域(図書館、保健センター、子育て支援活動拠点等)において、家庭での読書活動の啓発と、図書情報の提供を行います。

重点的取組 毎月23日の取組推進

○保育園、学校、地域(図書館、保健センター、子育て支援活動拠点等)において、家庭での毎月23日の取組について呼びかけるなどの啓発を行います。

取組

- 乳幼児健診・相談等の保護者が集まる機会を利用して、絵本を通して親子のコミュニケーションを図ることの重要性を説明して、家庭での読書環境づくりの大切さを呼びかけます。
- 図書館において乳幼児、幼児・小学校低学年向けおはなし会の開催や、親子向け読書講演会を開催して、親子で読書に親しむ機会をつくれます。

2 保育園における子どもの読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における保育園の役割

保育園は、家庭と同様、子どもが多く時間を過ごす場であり、全ての子どもに等しく絵本を提供できる最適な場所です。絵本を通して、豊かな言葉を育み、絵本の楽しさを日常的に体験できる場所であり、乳幼児期において読書習慣の基礎を築く、重要な役割を担っています。

(2) 保育園における子どもの読書活動推進のための具体的な取組

重点的取組 保育士から園児への読み聞かせの充実

- 登園後、昼食前、午睡前や降園前などクラスごとに絵本の読み聞かせを実施します。
- あらゆる機会に年齢、発達段階、季節に応じた絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、園児が楽し

めるように工夫します。

重点的取組 毎月23日の取組推進

- 毎月23日の取組として玄関先のポスター掲示や、おたよりで保護者に知らせる啓発を行います。
- 園児に対しては、各園の状況により、読み手(担任)を交代して年齢にあった読み聞かせをします。

取組

- 園児の成長や環境にあった読書支援を大切にします。
- 各園の実情に応じて、保護者、園児向けに読んだ絵本の展示をします。
- 引き続き週に1度、保育園や図書館の絵本を家庭に貸出して、親子で絵本を楽しむように取り組みます。家庭に貸し出す際には、「絵本カード」に借りた絵本を記入して、年間を通して読んだ絵本がわかるように記録します。読書週間(年2回)を実施して、「読書カード」への記入や保護者に感想を寄せてもらいます。
- 家庭で絵本を選ぶ参考にして「推薦絵本リスト」を配布して、読書活動の啓発に努めます。「推薦絵本リスト」は必要に応じて見直していきます。
- 読書週間に合わせて、家庭における読み聞かせの重要性について保護者の理解を促すために、直接伝えたり、おたよりを配布します。
- 年度末に家庭へ絵本を貸し出す取組についての感想を保護者から寄せてもらい、次年度以降の絵本カード作りに活用します。
- 各園の実情に応じて、図書館や南部小学校図書館と連携を深め、園児が公共図書館を利用することで、たくさんの本にふれて、本に興味を持つきっかけを作ります。また絵本の読み聞かせやパネルシアター*を司書が演じるなど、積極的におはなしの世界を楽しむ機会を作ります。
- 保育士は読み聞かせの技量を高める研修に参加します。
- 好奇心旺盛な乳幼児期に好きな分野の絵本を探せるよう幅広い分野の絵本を用意し、園児が自由に絵本に触れ、絵本を選べる環境を整備します。

3 学校における子どもの読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における学校及び学校図書館の役割

学校は、国語をはじめ教科等におけるさまざまな学習活動を通じ、子どもが読書習慣を身につけ、読書活動を通して、読解力や豊かな心を育てていくための大きな役割を担っています。

また学校図書館は、主体的な学習活動を支援し教育課程に寄与する学習・情報センターとして、また自由な読書活動や読書指導の場である読書センターとして、学校教育における中核機関であることから、児童・生徒にとって読書に親しみ、知りたいことを本で調べる力を培える大切な場所であり、子どもが読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を身につけていく上で、大きな役割を担っています。

(2) 学校における子どもの読書活動の推進のための具体的な取組

ア 小学校における子どもの読書活動の推進 ※各学校の実情に応じた取組

重点的取組 児童や先生による図書紹介

- 図書委員会や先生による本の紹介や読み聞かせ、ビブリオバトル、「私の心にのこった本」などの実施をします。児童にとって「読書の幅が広がる本」も紹介していきます。

重点的取組 毎月23日の取組推進

- 毎月23日の取組について校内放送や本の読み聞かせをするなど読書に親しむ活動を行います。また家庭へはおたよりでの紹介を通して啓発を行います。

取組

- 児童の成長や環境にあった読書指導をします。
- 一斉読書や読書活動の時間を作り、一層の普及を図ります。
- 学校図書館の利用のきまりを伝え、図書館の活用に向けた図書館オリエンテーションを実施します。
- 読書週間・読書旬間に読書に関連したイベントを実施します。具体的には、コラボ献立、ビブリオバトル、図書館クイズ、授業に関連した図書の展示など、児童が図書館に足を運びたくなるような工夫や読書に興味を持つような読書に関連したイベントの充実を図ります。
- 児童の読書の幅が広がる本を用意して、興味がある本を選べるような図書を充実させる必要があります。
- 児童の「読みたい本」を知り、読書意欲の向上につながるよう児童に選書してもらう機会を設けます。
- 親子読書推進のため、「家庭読書カード」に感想を寄せてもらったり、図書館だよりで呼びかけたりするなど、家庭での読書を促進します。
- 蔵書構成の見直しを図り、読書意欲を喚起させる図書や各教科等の学習を進める上で必要な最新のデータが掲載されている参考図書を購入して、図書資料の充実を図ります。
- 学習指導要領＊の改定に対応した図書を収集します。
- 図書の充実とともに、修理や古くなった図書の入替をするなど適切な管理をします。
- 「県と市町村の電子図書館サービス」利用について、今後学校図書館での利用が可能になった際には、あらゆる児童が読書を楽しむためにも、紙媒体と同様に活用できるように検討していきます。
- 地域開放を行っている南部小学校図書館では、おはなし会や廃棄雑誌のプレゼントや図書館だよりの発行などを行い、図書館の利用促進を図ります。
- 地域ボランティアと連携・協力して、児童の読書活動を推進します。
- 将来児童が地域の図書館を活用できるように図書館との連携を深め、村図書館の利用について呼びかけます。
- 定期的に学校図書館だよりの発行をします。
- 児童が図書館に親しめるような明るい雰囲気づくりや本を探しやすくするための配架の工夫をこらし、各学校の特色を生かした環境整備に努めます。

イ 中学校における子どもの読書活動の推進

重点的取組 生徒や先生による図書紹介

- 図書委員会企画で「私の心に残った本」の実施や「おすすめ本紹介カード」の作成をします。お互いに紹介しあうことで、人と本を結ぶ取組を行います。生徒に「読んで欲しい本」を紹介することで、自分の興味を深め、想像力を高め、人生をより良く生きる力を育むような本との出会いを大事にします。

重点的取組 選書体験機会の充実

- 選書会を実施して、本や図書館への興味・関心を高める取組を行います。

重点的取組 毎月23日の取組推進

- 毎月23日の取組についておたよりでの紹介や、校内放送で呼びかけるなどの啓発を行います。

取組

- 生徒の成長や環境にあった読書指導をします。
- 毎月23日の取組を呼びかけていきます。
- 毎朝、朝読書に15分間取組み、一層の普及を図ります。また、朝読書のクラス利用を推進して、図書館への来館を促します。
- 学校図書館に親しむため、図書館利用についての図書館オリエンテーションを実施します。
- 読書週間・読書旬間の実施、生徒の読書体験の情報交換など生徒が読書に興味を持つような読書関連イベントの充実を図ります。
- 図書館掲示板を使い、購入図書・推薦図書の紹介、各種ポスターや新聞等の展示や掲示を行い、図書館からの情報を随時提供します。
- 校内放送などICTを活用し、購入図書・推薦図書の紹介を行い、図書館にどのような本があるのか情報を提供します。また生徒自らが蔵書を検索できるような環境づくりが必要です。
- 蔵書数が「学校図書館図書標準」に達していないため、資料の充実を図るとともに、保存スペースの確保や設備の整備に努めます。
- 生徒の心の糧になったり、読書意欲を喚起させられる図書や、最新のデータが掲載されている図書を購入して、図書資料の充実を図ります。
- 「県と市町村の電子図書館サービス」利用について、今後学校図書館での利用が可能になった際には、あらゆる生徒が読書を楽しむためにも、紙媒体と同様に活用できるように検討していきます。
- 小学校や村図書館など関係機関と連携し情報交換や相互貸借を随時行います。村図書館とは、選書や図書の有効活用を中心とした連携イベントを行います。
- 調べ学習のための演習を行い、著作権について学びながら、資料・情報活用の学びを図ります。
- 学習指導要領の改定に対応した図書を購入します。
- 必要に応じて、地域ボランティアグループと連携・協力して、生徒の読書活動を推進します。
- 生徒が図書館に親しめるような明るい図書館の雰囲気づくりや本を探しやすくするための配架の工夫をこらし、学校の特色を生かした環境整備に努めます。

4 地域における子どもの読書活動の推進

(1) 図書館における子どもの読書活動の推進

ア 子どもの読書活動の推進における図書館の役割

図書館は、子どもが豊富な蔵書の中から自由に本を選び、読書の楽しみを知ることができる場所です。子どもや保護者、保育園、学校、保健センター、地域の子育て支援活動拠点等の読書活動を支援する地域における読書施設として、中心的役割を担っています。

イ 図書館における子どもの読書活動推進のための具体的な取組

重点的取組 子どもや大人による図書紹介

○読書週間や夏休みを中心に、子どもや大人からの推薦図書を館内に掲示します。図書館として、発達段階に沿った「読んで欲しい本」を紹介します。

重点的取組 読書エピソードの紹介

○取組成果としての読書エピソードを収集し、参考事例として図書館だよりで紹介します。

重点的取組 毎月23日の取組推進

○毎月23日の取組をPRするポスターを作成します。また「毎月23日の取組」についての参考事例を図書館だよりや広報などで紹介します。

取組

- 「読書感想文コンクール」や本に出会うきっかけとなるイベントを実施して、本に親しむきっかけを作ります。
- 乳幼児・小学生を対象にしたおはなし会を実施します。
- あらゆる場所で子どもがおはなしを楽しめるよう、おはなし会の出前講座を実施します。
- 南箕輪村ゆかりの作者や関連図書を収集・展示して、おはなし会などでそれらの作品を取り上げます。
- 健康福祉課と連携して、7か月児相談にて乳児にファーストブックを、3歳児健診にて幼児にセカンドブックを贈り、保護者のみなさんに幼いうちからの家庭内における読書習慣づくりのきっかけを作ります。
- 幅広い年齢層の子どもにとって魅力的な図書館であるよう、アンケートを実施して、子どもの興味や知的好奇心を満たす図書や調べ学習に必要な図書資料を収集します。
- 年齢別子ども向け「推薦図書リスト」を作成して提供します。また「推薦図書リスト」や「読書にまつわるエピソード」を紹介した図書館だよりを発行します。
- 支援の必要な子どもにあった図書の提供や、館内利用の際の介助をします。
- 保育園、学校、保健センター、子育て支援センター、こども館、地区公民館等の読書活動を支援できる図書の収集に努めます。
- 中高生向けヤングアダルト図書*の充実を図ります。

- 外国語を母国語とする子どもや保護者及び外国語に興味がある子どもが必要とする外国語の絵本の収集をします。また県立図書館や近隣の図書館から借り受けも行い、必要に応じて保育園や学校に提供します。
- 「県と市町村の電子図書館サービス」利用について、全ての子どもたちが読書を楽しむためにも、紙媒体と同様に活用できるように利用方法も含め、啓発を行います。
- 図書の充実とともに、修理や古くなった図書の入替をするなど適切な管理をします。
- 地域ボランティアグループと連携・協力し、子どもの読書活動を推進します。
- 子どもや保護者、関係機関からの読書活動の相談に応じられるよう図書館員の資質の向上に努めます。
- 図書館だより、新聞、広報紙、ケーブルテレビ、ウェブサイトにて、読書活動の啓発を行います。
- 子どもが図書館に親しめるような明るい図書館の雰囲気づくりや本を探しやすくするための配架の工夫をこらし、落ち着いて読書ができる環境整備に努めます。

（２）保健センターにおける子どもの読書活動の推進

ア 子どもの読書活動の推進における保健センターの役割

保健センターは、子育て中の親子が訪れて、心身の発育や発達についての相談に応じる場所です。子育てに関心のある時期に、絵本の読み聞かせの大切さや絵本を通してのコミュニケーションの大切さを、直接保護者に伝えられる大きな役割を担っています。

イ 保健センターにおける子ども読書活動推進のための具体的な取組

重点的取組 絵本の紹介／家庭での読み聞かせについての呼びかけ

- 図書館と連携して、乳幼児健診・相談等保護者が集まる機会に、図書館司書による絵本の紹介、リーフレット等の活用をして、幼い頃からの絵本の読み聞かせの大切さについて具体的な取組方法を紹介しながら伝えていきます。図書館利用につながるような紹介も行います。

重点的取組 毎月23日の取組推進

- 乳幼児健診や発達・子育て支援教室にて、読み聞かせをする機会に家庭での毎月23日の取組について呼びかけるなどの啓発を行います。

取組

- 発達・子育て支援教室の中で、子どもの発達段階に応じた絵本や紙芝居の読み聞かせを取り入れて、保護者とともに子どもの成長を支援していきます。

(3) 地域の子育て支援活動拠点等における子どもの読書活動の推進

ア 子どもの読書活動の推進における地域の子育て支援拠点等の役割

地域の子ども支援活動拠点等は、子どもと保護者、子どもと地域の大人、子ども同士が交流を深めながら、子どもの成長を見守る場です。コミュニケーションを通じて、心を通わせ合う経験のなかで、絵本の読み聞かせや本を読み合う喜びを体験の1つとして提供することができる大きな役割を担っています。

イ 地域の子育て支援活動拠点等における子ども読書活動推進のための具体的な取組

重点的取組 地域の大人による読み聞かせの充実

○活動のなかに、必要に応じて絵本や紙芝居の読み聞かせを取り入れて、読書の楽しさや喜びを分かち合う機会を作ります。

重点的取組 毎月23日の取組推進

○絵本や本の読み聞かせをする機会に、家庭での毎月23日の取組について呼びかけるなどの啓発を行います。

第5章 広報・啓発活動

1 広報・啓発の推進

(1) 「子ども読書の日」「毎月23日の取組」を中心とした広報・啓発の推進

- 「子ども読書の日」(4月23日)に、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるために子どもを対象とした行事を実施して、広報・啓発活動を行います。
- 「毎月23日の取組」について広く周知するため、啓発用のポスターを作成します。関係機関と連携を図りながら、広報・啓発活動を行います。

(2) 情報の提供

子どもや保護者が本を選ぶ参考になるように、保育園だより、学校図書館だより、図書館だより、広報紙、ケーブルテレビ、ウェブサイト等で「推薦図書」や「読書にまつわるエピソード」を定期的に紹介します。第三次計画の「取組事例」も紹介して、読書活動を広げていきます。

第6章 関係機関との連携・協力

1 連携体制の整備

本計画の推進にあたり、家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター、地域の子育て支援活動拠点等)が連携・協力を図るため、関係者からなる「南箕輪村子ども読書活動推進会議」を設置し、必要に応じて推進会議を開き、総合的な推進体制が整備されるように努めます。

2 関係機関との連携・協力

(1) 家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター、地域の子ども支援活動拠点等)の連携協力

子どもの読書活動を一層推進していくためには、家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター、地域の子ども支援活動拠点等)がそれぞれの役割を果たしつつ、連携・協力していくことが重要です。このため、関係者が情報交換等や様々な相談を行います。

(2) 地域ボランティアとの連携協力

子どもの読書活動について、地域ボランティアと連携して、子どもの読書活動を支援します。また地域ボランティアが十分に子どもの読書活動を支援できるよう図書や図書情報の提供をします。

資料編

用語解説（五十音順）

●アウトメディアデー

南箕輪村教育委員会では毎月23日に、メディアの利用を控え子どもとふれあう日（共育の日）として、家庭に「子どもと一緒に読書、運動、遊び、食育などに取り組むとともに、お手伝いの推奨」を呼びかけている。

●朝読書

学校で全校一斉に行う朝の読書活動。読書を習慣づける目的で始業前に本を読む活動。

●イラストコンテスト

自分で読んだ、もしくは好きな本（コミックをのぞく）の表紙や挿絵から絵を描き、おすすめの文を付けて、視覚的に本のイメージをふくらませて読書の輪を広げ合う活動。

●オリエンテーション

組織の仕組み・ルールなどについて説明すること。学校図書館においては、新学期に学校図書館の利用方法や決まりについて、児童・生徒に説明すること。

●学習指導要領

文部科学省が告示する教育課程の基準。

●学校図書館図書標準

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準。

●子ども読書の日

4月23日。平成13年12月「子どもの読書活動推進に関する法律」により施行。子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的としている。

●コラボ献立

絵本や児童書に登場する料理を学校給食で提供する企画。

●セカンドブック

ファーストブックの次に子どもに贈る絵本。当村では、3歳児を対象に3歳児健診時に絵本を1冊贈っている。

●選書会

図書館で入れて欲しい本を児童や生徒が自分たちで選ぶ取組。

●読書週間

一般的には10月27日から11月9日（文化の日を中心とした2週間）まで、読書を推進する行事が集中して行われる期間。当村では、各保育園、学校により独自に目的や期間（1週間）を設定して取り組んでいる。

●読書旬間

読書週間より長い期間で読書を推進する行事をする場合に言う。読書週間同様、各学校により独自に目的や期間（10日～14日）を設定して取り組んでいる。

●パネルシアター

パネル布を貼った舞台に絵を貼ったり外したりしておはなしや歌を展開する。

●ビブリオバトル

本の紹介コミュニケーションゲーム。「知的書評合戦」とも呼ばれている。

●ファーストブック

赤ちゃんに贈る初めての絵本。当村では、7か月児を対象に7か月児相談時に絵本を1冊贈っている。

●ヤングアダルト図書

13歳～18歳（中学・高校生を中心とした年代）までの人たちに提供する本。

●レファレンス

図書の照会や検索をする業務。